

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 No.20

# 富山市の遺跡物語



黒崎種田遺跡出土暗文土器

あんもん

暗文土器とは、外面は丁寧にヘラ磨きし、内面は放射状やらせん状の模様を付けた土器です。この模様は当時高級食膳具であった金属器の輝きを表現したと考えられています。黒崎種田遺跡出土暗文土器（皿・高杯）も内底面にらせん状、口縁部内面に放射状の模様が確認できます。

暗文土器は古墳時代終わりから奈良・平安時代にかけてつくられ、公的な性格の集落（官衙など）から出土することが多い特殊な土器で、今回の出土が市内で2例目となりました。

## 目 次

史跡この1年	2	X 組織・事業費	27
埋蔵文化財発掘調査概要報告	6	研究報告1 統・額のない人面墨書き土器（堀沢祐一）	28
平成30年度事業概要		研究報告2 中世富山城跡の神保長職による「自落」痕跡 と派生する諸課題（小黒智久・萩原大輔）	36
I 埋蔵文化財調査	9	研究報告3 富山城下町遺跡出土の搬入陶磁器について (燃曲輪フェリオ地区) (鹿島昌也・新宅輝久)	46
II 遺跡地図管理	16		
III 史跡の保護・管理	17		
IV 展示・普及	21		
V 刊行物	23		
VI 活用	24		
VII 調査研究	24		
VIII 研修等参加	26	出土資料から見た近世富山の食文化 (納屋内高史)	54
IX 寄贈	27		

## 北代縄文広場この1年－平成30年度－

### ●ミニ企画展「捨て場からみえる縄文人の暮らし」(5/29～11/25)を開催しました

平成7（1995）年に富山市教育委員会が発掘調査を実施した浜黒崎野田・平榎遺跡では、縄文時代後期後半～晚期前半（約3,500年前）の土器捨て場が確認されました。これは集落の近くにあった傾斜地を、破損した土器や使わなくなった道具などの捨て場として利用していたもので、ここから発掘調査によってコンテナ箱（60×40×15cm）400箱分もの遺物が出土しました。

また、捨て場は水分を含む低湿地であったことから、木製の弓や種子、自然木など高台の集落では腐って残らないような遺物もみられ縄文人の暮らしを解明する手掛かりが多く残されていました。



展示の様子

### ●ミニ企画展「縄文人の食生活」(11/27～31/5/27)を開催しています

昨年のミニ企画展「縄文人の食生活」展で魚類をテーマに展示したのに引き続き、今回のミニ企画展では、富山市教育委員会が行った小竹貝塚の工事立会調査のうち、主に平成20（2008）年度調査区の貝層（かいそう）部分から出土した鳥類遺存体（骨）や鳥類等を捕獲した石鏃などの狩猟具の展示をとおして、縄文人と鳥類の関わりを探りました。出土した鳥類は河川や湖、沼などの内水域や沿岸、海上で生息する水鳥が主となっており、「潟」（旧放生津潟）べりに形成された小竹貝塚の環境をよく表しています。



展示解説会

### ●本年度も北代縄文考古楽講座を開講しました

平成29年度に開講した北代縄文考古楽講座を本年度も開催しました。本講座は考古学や縄文時代、郷土富山の歴史をさまざまなジャンルをテーマにして講師と受講生が質疑応答しながらともに楽しく学ぶ試みです。本年度は縄文人の表現力や地磁気、古代の精神世界など幅広いテーマで4回の講座を行いました。



第1回講座

●「文化の秋の縄文土器づくり」、「文化の秋の縄文土器づくり作品展 2018」を開催しました

10月に全3回講座で、4名の参加者が北代遺跡出土の1/2サイズの串田新式土器（深鉢）づくりに挑戦しました。実物の土器を観察して縄文人の造形を丁寧に再現しました。十分乾燥させて縄文人と同様に野焼きを行い当時の姿に迫りました。完成した作品は、北代縄文館で展示しました。



土器製作



土器の野焼き

「文化の秋の縄文土器づくり」

●悠久の森 2018 連携事業 「きただい！子ども縄文教室」を開催しました

夏休みイベントとして、紙芝居で縄文時代を学び、磨製石斧や縄文土器の観察、模造石斧による擬似伐採、火起こし、縄文土器づくりなどの縄文人の暮らしを体験しました。



紙芝居鑑賞



土器の学習

きただい！子ども縄文教室

●呉羽中学校・速星中学校の生徒が北代縄文広場で職場体験を行いました

学校外で職場体験活動に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」の一環として、中学生が北代縄文広場で体験活動しました。復元建物の維持管理のほか、広場の展示解説案内、敷地内の除草・清掃といった活動をボランティアの会や広場管理人の指導を受けて行いました。体験活動をとおして生徒達は、普段目につくことのない施設管理の難しさや来場者への気配り、物事や情報を伝えるとの大変さを実感していたようです。（中本八徳）



14歳の挑戦

## やまとじょうざい 婦中安田城跡歴史の広場この1年—平成30年度—

### ●夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城」

夏休みの恒例となった「夏休み子ども歴史講座『秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城』」を平成30年7月27日に開催し、児童と保護者計50名が参加して安田城について学びました。

講師を務めていただいたのは、いつも児童と接している身近な市内の小学校教員と教員OBの方々です。今回の講師は鰐川小学校の前田雄一郎先生、水橋西部小学校の武部佳奈先生、杉原小学校の小倉祐介先生、指導補助ボランティアには角田睦美先生、杉森慶子先生、野村理佐子先生にご協力いただきました。

はじめに講師の先生から安田城がたどった歴史を豊臣秀吉の天下統一と周辺の白鳥城・大畠城、富山城の関係とからめて、解説していただきました。

続いて城跡でのフィールドワークでは、児童達は配布された「探検マップ」を手に安田城の構造を観察しました。途中、先生から堀や土塁、曲輪の配置など、敵の攻撃を防ぐ様々な仕掛けを説明されると、熱心にメモを取りながら昔人の技術力の高さや戦いの苦労を感じ取っているようでした。

最後に資料館にもどり、フィールドワークで気がついたことや驚いたことなどを「探検レポート」にまとめる作業をおこない、理解を深めました。レポート集には難攻不落の安田城の構造に関して驚きをもって書く児童が多くいました。

書いたレポートは、レポート集としてまとめ、後日参加者に配布しました。

今夏は連日の猛暑のため、外でのフィールドワークには熱中症も心配されましたが、参加した児童は元気そのもので安田城を堪能しました。郷土の歴史を身近な先生方から学ぶことで、地域に対する关心や愛着が自然に持てるようになれば幸いです。  
(中本八穂)



やまとじょうざい  
婦中安田城跡歴史の広場この1年—平成30年度—

秀吉と成政の戦いを見つめた城 安田城  
—おもて開拓をもとと/or—

○探検レポート集

中本八穂  
富山市立郷土文化情報センター



## ●「安田城跡保存活用計画」と「安田城跡再整備基本計画」の策定

富山市婦中安田城跡歴史の広場は、平成2~4年度に整備工事を行い、平成5年5月に開場しました。開場後25年が経過し、堀をはじめとした施設の著しい老朽化が認められるなど様々な問題を抱えており、再整備による改修工事や堀の浚渫等により、抜本的な解決を図ることが必要となっています。

そこで、今年度、史跡安田城跡の保存活用と再整備事業の基本方針と具体的手法について明確化した保存活用計画と再整備基本計画を策定しました。計画の策定にあたっては、平成29年度に安田城跡再整備準備検討会議（県費補助事業）を2回、平成30年度に安田城跡再整備基本計画策定会議（国庫補助事業）を2回開催し、学識経験者や国・県のオブザーバーから指導・助言を得ながら、安田城跡の適切な保存管理や活用、再整備について検討を行いました。内容を取りまとめた『安田城跡再整備基本計画書』は、平成31年3月末に刊行予定です。



今後、本計画に基づき、価値ある歴史遺産である安田城跡の再整備事業を推進するとともに、歴史学習や憩いの場としての活用促進に取り組んでいく予定です。  
(大野英子)

### 安田城跡再整備基本計画策定会議専門家（敬称略）

氏名	専門分野	所属
西井 龍儀	考古学・建築	富山考古学理事、一級建築士
高岡 徹	戦国史	とやま歴史的環境づくり研究会代表、越中史壇会会員
廣瀬 優一	多自然水路工法・農業農村整備	庄西用水土地改良区理事長、農学博士
奥川 光治	水質・環境学、環境工学	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授
古谷 元	地盤工学	富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授
中田 政司	植物環境	富山県中央植物園長
中村 只吾	活用・地域づくり	富山大学人間発達科学部 准教授
村田 友康	公園整備	富山市公園緑地課長

### 安田城跡再整備準備検討会議および安田城跡再整備基本計画策定会議の経過

会議	日時・場所	おもな議題
第1回安田城跡再整備準備検討会議	平成29年9月12日 朝日地区センター、安田城跡	・史跡の現状と問題点（現地指導） ・再整備方針の検討にあたっての考え方
第2回安田城跡再整備準備検討会議	平成30年2月21日 婦中行政サービスセンター	・再整備基本方針（案）
第1回安田城跡再整備基本計画策定会議	平成30年11月16日 婦中行政サービスセンター	・調査・測量業務委託の結果報告 ・設備改修案、維持管理案、活用案
第2回安田城跡再整備基本計画策定会議	平成31年2月20日 婦中行政サービスセンター	・再整備基本計画（案） ・保存活用計画（案）

## ●ミニ企画展「鋳物づくりのムラ—金屋南遺跡—」

安田城跡の北東約1kmの位置には、鎌倉時代から室町時代にかけて、鋳物の生産を行ったムラであった金屋南遺跡が存在しました。地名「金屋」の由来といえる当時のムラの暮らしはどのような様子だったのか、出土品から紹介しました。

1月16日の展示解説会では、出土品から垣間見られる鋳物づくりの技術や人々の願いについて解説しました。3月23日には、市埋蔵文化財センター学芸員による、関連講座「鋳物づくりのムラ—金屋南遺跡—」を開催しました。鋳物づくりのムラの暮らしの解説に、参加者は熱心に聞き入っていました。



(中本八穂)

## 調査概要報告 1 奈良時代から江戸時代まで長期間営まれた集落

ともさかいいせき  
**友坂遺跡**

### 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市北西部の井田川左岸の平野部、標高12mに立地します。西側250mには南北に延びる呉羽丘陵があります。

これまでの調査で、奈良時代から江戸時代まで継続して集落が営まれたことがわかっています。特に鎌倉・室町時代には、現在の朝日小学校辺りに二重の溝で囲まれた居館が存在していました。集落を営むのに適した場所であるとともに、戦略拠点として重要な位置を占める場所でもありました。

(婦中町友坂地内)



調査区全景（北東から）

### 2 調査の概要

個人住宅の建築に伴い発掘調査を行いました。わずか49m<sup>2</sup>の調査でしたが、9世紀、13世紀前半、15世紀中葉、16世紀後半、17世紀後半と多様な時期の遺構を確認しました。友坂遺跡の集落の継続性をより裏付ける成果となりました。

**奈良・平安時代** 奈良時代の終わり頃、洪水によって基盤となる土壤が堆積したとみられます。その後、ほどなくして集落の形成がはじまりました。調査区のすぐ西側には旧河道が存在しており、今回の調査区は、旧河道沿いの集落西端付近にあたると考えられます。

**鎌倉・室町時代** 井戸や掘立柱建物等を確認しました。井戸からは、ホゾのある角材と板で囲った井戸枠が見つかりました。出土遺物は珠洲焼や青磁があります。居館の周囲に広がっていた集落の一部とみられます。

**江戸時代** 溝やピットが散見されました。居館が廃絶した後も集落が形成され続けたことがわかります。

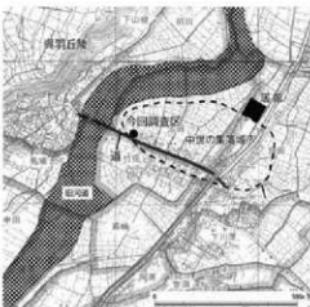


鎌倉時代の井戸

### 3 鎌倉・室町時代の友坂遺跡

冒頭に記したとおり、友坂遺跡は鎌倉・室町時代に居館が築かれた重要な場所でした。南北ルート（江戸時代の飛騨街道脇道）・東西ルートの交差点近くという要衝に位置することが背景にあると思われます。

過去の調査では、居館の南側で同時期の集落遺構が複数検出されています。今回見つかった遺構も居館の存続時期とほぼ重なり、集落が居館の南西側へも広がっていたことを確認できました。（野垣好史）



中世の友坂遺跡の様子(推定)

# 米田南田遺跡

## 調査概要報告 2 弥生時代の玉作り集落か

(米田町 2丁目地内)

### 1 遺跡のあらまし

この遺跡は、富山市中心部から北東 5km に位置し、神通川右岸の標高 8.3~8.5m の微高地・氾濫平野に立地する、弥生・奈良・平安、中世の集落跡です。

本遺跡の北 0.5km にある米田大覚遺跡では、9世紀中頃を中心とした掘立柱建物 32棟・井戸 9基・道路遺構などを検出し、墨書き土器 208点・石帶の帶飾り・縁袖陶器・風字鏡などが出土しました。L字型の規則正しい建物配置や出土遺物の構成内容から、新川郡衙と推定しています。本遺跡の南西 0.7km にある豊田大塚・中吉原遺跡では、弥生時代終末期～古墳時代前期の集落を検出したほか、平安時代の溝から律令祭祀に使われる人面墨書き土器 3点・人形 4点が出土し、立地から新川郡衙の祭祀場に推定しています。

このように本遺跡の周辺一帯は多くの遺跡が分布し、早くから開発が進んでいました。

### 2 調査の概要

今回の調査は、県道を跨ぐ歩道橋工事に先立つ発掘調査です。調査区が 3か所で全体の面積は 64 m<sup>2</sup> という小規模な調査でした。

遺構は弥生時代中期後半～後期の土坑やピット、奈良・平安時代の遺物包含層が見つかりました。

出土遺物には、弥生土器、磨製石斧、たたき石、管玉未成品、土師器、須恵器、内黒土器、灰釉陶器、土錘、土馬脚部、鉄滓などがあり、弥生時代中期後半～後期と奈良・平安時代の遺物が主体です。

### 3 見つかった遺構・遺物から

見つかった遺構は小規模な土坑やピットです。遺構から出土した遺物は弥生土器 1点のみでしたが、炭化物の放射性炭素年代測定の結果が紀元前 2~1 世紀の範囲に入ることや土の堆積状況から、遺構の時期は弥生時代中期後半～後期と判断しました。

弥生時代の出土遺物の中に、管玉未成品があります。遺構の埋土を土壤洗浄したところ見つかりました。長さ 0.5cm で穿孔してあり、割れています。石材は緑色凝灰岩と考えられます。このほか緑色凝灰岩の原石もあり、弥生時代には、集落の中で玉作りを行っていたと考えられます。

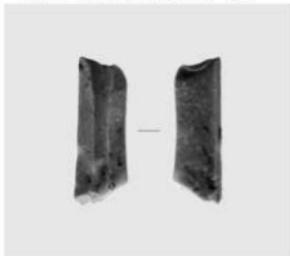
奈良・平安時代の出土遺物の中に鉄滓があります。この鉄滓について自然科学分析をしたところ、砂鉄から鉄を製錬した際にできた鉄滓であることがわかりました。また、土壤洗浄で見つかった微細な鉄滓は、分析の結果、鉄鉢物铸造でできたことがわかりました。このことから、今回調査区周辺には鉄を加工する工房があったと考えられます。

静岡県や茨城県には、郡衙など公的施設に伴う金属加工工房の調査例があり、米田南田遺跡は新川郡衙に付属する工房の可能性があります。

(細辻嘉門)



調査区全体の状況（北から）



管玉未成品（長さ 0.5cm）

## 1 遺跡のあらまし

(婦中町小長沢地内)

調査地は、西に羽根丘陵、東に辺呂川が流れる氾濫平野に立地する、婦中町小長沢地区にあります。標高は18~21mを測ります。羽根丘陵には、縄文時代前期には<sup>半岡</sup>遺跡に大規模な集落が営まれます。弥生時代後期~古墳時代前期には、四隅突出型墳丘墓や前方後方墳など多数の墳墓や古墳、集落からなる史跡王塚・千坊山遺跡群が広がり、古墳時代後期には二本榎遺跡の横穴式石室をもつ円墳など、この地域を治めた有力者や家族の古墳が造られます。

## 2 調査の概要

県営ほ場整備事業に伴い、水田3.98haを対象に遺跡の有無を確認するための試掘調査をおこないました。

今回の調査では、調査対象地の南側で、縄文時代~古代の土坑や溝、柱穴などの遺構が見つかりました。

出土遺物には、縄文土器、弥生土器、古代の土師器・須恵器、近世陶磁器・かわらけがあります。



32T 縄文土器出土状況

## 3 まとめ

試掘調査の結果、遺跡は今回調査対象地の南側に広がることがわかりました。また、今回調査対象地の西隣の未調査地にも遺跡が広がっている可能性があります。

縄文土器の時期は晩期で、ほぼ1個体に復元できました。縄文時代晩期には、この地域に集落が営まれ、人々が生活していたことがわかりました。 (細辻嘉門)

# 平成 30 年度事業概要

## I 埋蔵文化財調査

### 1 調査実績

**免査調査** 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果	遺跡の種類
米田南田(2010035)	米田町2丁目	一般県道八幡田福荷蘿原県単独道路改良断面造橋事業	63.52	弥生ビット／縄文磨製石斧、縄文叩石、弥生土器、古代土師器、古代須恵器、弥生菅玉未成品、不明鉄矛	集落
友坂(2010429)	越中町友坂	個人住宅建築	49.12	古代土坑、古代ビット、中世井戸、中世溝、中世土坑、中世ビット、江戸ビット／古代土師器、古代須恵器、古代土雞、中世珠洲、中世青磁、中世井戸枠、中世鐵貨、江戸越中漬戸、江戸磁器、江戸銭貨、不明磁石	集落
計2件			112.64		

**試掘調査・工事立会** 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。＊は工事立会

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
打出(2010002)	布目	和合中学校校舎改築	1,400	不明溝／弥生土器、古代土師器、中世土師器、江戸越中漬戸、江戸唐津、江戸伊万里
打出(2010002) *	布目北	布目北地区配水管布設工事	230	遺跡なし
岩瀬天神(2010005)	岩瀬古志町	管理棧便塗・駐車場整備	220	遺跡なし
岩瀬天神(2010005)	岩瀬古志町	埋設物調査	231.72	遺跡なし
岩瀬天神(2010005)	岩瀬古志町	個人住宅建築	377.23	不明土坑／なし
乳羽本郷(2010016) *	本郷中部	寒江小学校ブロック舗等撤去外学務委託	52	遺跡なし
大塚(2010017)	大塚字矢田島	個人住宅建築	875.48	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	282.04	江戸磁器
今市(2010023)	八幡	個人住宅建築	476.76	古代溝、古代土坑、古代井戸、江戸溝／古代土師器、古代須恵器、中世珠洲、江戸越中漬戸、江戸伊万里
今市(2010023) *	八幡	八幡小学校屋外遊憩施設改築	15.51	江戸土坑／古代須恵器、江戸越中漬戸
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	186.91	遺跡なし
今市(2010023) *	八幡	個人住宅建築	13.9	遺跡なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	261.23	遺跡なし
今市(2010023)	八町東	簡易郵便局前住宅建築	438.44	不明土坑、不明廣／なし
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	391.34	遺跡なし
今市(2010023) *	八町東	八町東地区配水管布設工事	50	遺跡なし
今市(2010023) *	八幡	八幡地区配水管布設工事	240	古代土師器、中世土師器、江戸伊万里、不明磁器
江代削(2010025) *	西方荒畠	西方荒畠地区配水管布設工事	20	弥生土坑、不明土坑／弥生土器、江戸越中漬戸、江戸伊万里
西方削戸削(2010027)	西方荒畠字津彌削	駐車場造成	2,319	遺跡なし
草島(2010029)	草島	車庫建築	68.54	江戸越中漬戸
草島(2010029) *	草島字鶴田	車庫建築	1.5	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
森(2010031)	森1丁目	集合住宅建築	965	弥生土器、江戸陶器
森(2010031)	森1丁目	個人住宅建築	511	不明土器
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	鉄塔敷地施設工事	98	遺跡なし
蓮町(2010033)	蓮町5丁目	個人住宅建築	224.47	遺跡なし
米田南田(2010035)	米田町2丁目	一般県道八幡田稲荷線 県単独道路改良横断歩道橋事業	550	遺跡なし
水落南(2010037)	水落字南削	個人住宅建築	274.92	古墳土器
水落南(2010037)	水落	個人住宅建築	207.36	遺跡なし
針原中町Ⅰ(2010051)	針原中町字竹花	個人住宅建築	470.35	縄文土器、弥生土器
水橋荒町・辻ヶ堂(2010056)＊	水橋辻ヶ堂	水橋西部小学校新校舎 独立主体工事附属建物建築	40	遺跡なし
水橋池田原(2010059)	水橋池田町	個人住宅建築	75	遺跡なし
小出城跡(2010066)	水橋小出	資材置場造成	750	遺跡なし
水橋糺塚(2010069)	水橋糺木	埋設物調査	1,677	遺跡なし
東老田Ⅲ(2010087)	東老田	個人住宅建築	430.86	遺跡なし
東老田Ⅲ(2010087)	東老田	個人住宅建築	484.77	遺跡なし
鶴海寺城跡(2010091)	鶴海寺	個人住宅建築	140	遺跡なし
鶴海寺城跡(2010091)	鶴海寺字節本	個人住宅建築	492.06	遺跡なし
鶴海寺城跡(2010091)	鶴海寺字節本	工場増築	819	戰国壙、不明壙、不明土坑／戰國土師器皿、戰國白磁、戰國磚、江戸伊万里、江戸肥前系陶器
砂川カタダ(2010098)	東老田	個人住宅建築	500	古代土師器、古代須恵器
山寺谷Ⅱ(2010142)	眞羽町字一ツ川塚	個人住宅建築	462.41	古代土師器、古代須恵器
眞羽本町(2010147)	眞羽町字古鳥	個人住宅建築	223.55	縄文土器／縄文土器
眞羽本町(2010147)＊	眞羽町字古鳥	個人住宅建築	13.2	縄文土器
眞羽コウヅバタ(2010149)	北代字中尾	個人住宅建築	330.74	遺跡なし
眞羽富田町(2010182)	北代字伊佐戻	個人住宅建築	482.68	古代土師器、古代須恵器
眞羽山古墳(2010224)＊	安養坊番神山	機材運搬用モノレール 設置・ボーリング調査	20	遺跡なし
番神山横穴墓群(2010225)＊	安養坊番神山	機材運搬用モノレール 設置・ボーリング調査	20	遺跡なし
番神山横穴墓群(2010225)＊	安養坊	眞羽山公園墓園整備工事	827	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
八町田(2010228)	八町南	駐車場・資材置場造成	5,163	縄文(晩)土坑、縄文(晩)溝、古墳土坑、古墳溝、平安土坑、平安溝、中世土坑、中世溝／縄文(晩)縄文土器、古墳土師器、平安土師器、平安須恵器、中世土師器、中世須恵器、江戸越中瓢戸、江戸伊万里
白塚(2010237)	山岸	個人住宅建築	500.74	遺跡なし
豊丘町(2010242)	高園町	個人住宅建築	210	古代土師器
大島(2010243)	豊田本町1丁目	集合住宅建築	1,182.52	弥生土器
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町1丁目	建売住宅建築	416	遺跡なし
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町1丁目	資材置場造成	244	遺跡なし
豊田大塚・中吉原(2010246)	豊田本町1丁目	個人住宅建築	24.44	古代須恵器
新星殿田(2010249)	新星宇西尾敷削	個人住宅建築	402	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁目	事務所建築	30	遺跡なし
下富居(2010250)	下富居1丁目仕官削	ディサービス施設建築	693.13	遺跡なし
中富居(2010251)	中富居	個人住宅建築	181	遺跡なし
中富居(2010251)	上飯野字正源田	個人住宅建築	261.82	遺跡なし
中富居(2010251)	中富居	集合住宅建築	1,585.72	不明土師器
中富居(2010251)	中富居	分譲宅地造成	4,643	不明溝／江戸陶磁器
飯野小百戸(2010253)*	新屋	市道新屋5号線改良工事	120	遺跡なし
飯野小百戸(2010253)*	新屋字一丁田削	農作業所建築	320	遺跡なし
飯野小百戸(2010253)*	新屋	市道新屋5号線改良工事	90	遺跡なし
水橋二杉(2010262)	水橋二杉	個人住宅建築	287.49	遺跡なし
水橋入部(2010263)*	水橋入部町	市道水橋入部町3号線改良工事	43	遺跡なし
水橋の場(2010266)	水橋の場	一般国道415号簡単道路改良事業	424	不明溝、不明土坑／中世侏羅、江戸越中瓢戸、江戸伊万里
水橋の場(2010266)	水橋の場	車庫建築	34.02	遺跡なし
新堀(2010272)	水橋新堀	個人住宅建築	485.32	不明溝／江戸越中瓢戸
水橋石割Ⅱ(2010278)	水橋石割	個人住宅増築	60	遺跡なし
水橋石割Ⅱ(2010278)	水橋石割	水橋石割地区配水管布設替工事	11	遺跡なし
水橋平塚(2010284)*	水橋石割	水橋石割地区配水管布設替工事	57	遺跡なし
水橋金広・中馬場(2010286)*	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	40	遺跡なし
水橋田伏・佐野竹(2010298)*	水橋田伏	市道水橋金広中馬場線外1線改良工事	60	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
中老田南V(2010338)	中老田	資材置場造成	340	遺跡なし
柳谷(2010343) *	柳谷	市道柳谷4号線改良工事	40	遺跡なし
北押川1号塗路(2010346) *	池多	配水管布設工事	35	遺跡なし
住吉IV(2010356)	住吉	個人住宅建築	1,802	古代須恵器、古代土師器
安田城跡(2010427) *	婦中町安田	寒江処理分区日々上地区下水管布設工事	34.6	江戸伊万里
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	299.8	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	232	古代土坑、穴、溝／奈良土師器、奈良須恵器、古代土師器、古代須恵器
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	324.16	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町友坂	個人住宅建築	408	遺跡なし
友坂(2010429) *	婦中町下条	神明小学校外校プロック等撤去業務委託	20	古代須恵器
五福(2010438)	五福字青山	個人住宅建築	138.93	古代土師器
大蛇城跡(2010439)	五福字城	分譲住宅建築	109.09	遺跡なし
大蛇城跡(2010439)	五福字城	個人住宅建築	245	遺跡なし
大蛇城跡(2010439) *	五福	旧五福小学校解体工事	400	遺跡なし
大蛇城跡(2010439)	五福字城	埋設物調査	318.48	遺跡なし
鶴坂I(2010441)	婦中町鶴坂	事務所建築	1,189	遺跡なし
鶴坂I(2010441)	婦中町鶴坂	分譲住宅建築	284.2	遺跡なし
富山城跡(2010442)	大手町	銀行建築	788.08	江戸陶磁器
富山城跡(2010442)	総曲輪3丁目	店舗建築	279.1	江戸陶磁器
富山城跡(2010442)	桜木町	駐車場造成	720.05	古代土坑、中世溝、中世土坑、江戸壺、江戸土坑／古代須恵器、中世土師器、中世珠洲、江戸陶磁器、不明瓦石
富山城跡(2010442)	大手町	集合住宅建築	282.47	遺跡なし
富山城跡(2010442) *	丸ノ内3丁目	丸ノ内三丁目地区浸水対策下水管布設工事	367.4	不明壺／なし
富山城跡(2010442) *	桜木町	駐車場造成	0.45	遺跡なし
千石町(2010444) *	千石町4丁目	市道区画街路第2401号外2線側溝補修工事	69	遺跡なし
千石町(2010444) *	千石町4丁目	集合住宅建築	444.49	遺跡なし
千石町(2010444)	千石町4丁目	事務所建築	58.91	江戸井戸／江戸唐津、江戸越中瀬戸
千石町(2010444)	千石町6丁目	個人住宅建築	159.38	遺跡なし

遺跡名(遺跡No)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
大泉(2010448)	大泉中町	店舗建築	1,466.16	遺跡なし
大泉(2010448)	大泉中町	個人住宅建築	246.04	遺跡なし
新庄城跡(2010449)	新庄町1丁目	賃貸住宅建築	499	遺跡なし
室住池Ⅲ(2010461)	山本字上室住	ため池整備山本地区 室住池改修その2工事 (仮称)	80	遺跡なし
鏡坂Ⅰ(2010508)	鍋中町外輪野	事務所建築	3,633	遺跡なし
下邑(2010542)	鍋中町小長沢	県営農地整備事業小 長沢地区は場整備工 事	39,800	縄文(曉)土坑、弥生(後)土坑、古代柱穴、古代溝／縄文土 器、弥生土器、古代須恵器、古代土師器、江戸陶磁器
下邑東(2010543)	鍋中町羽根	資材置場造成	796	平安溝、平安ピット／平安土師器、平安須恵器、平安土雞
下邑東(2010543)	鍋中町羽根	個人住宅建築	126	遺跡なし
下邑東(2010543)	鍋中町羽根	個人住宅建築	499.91	遺跡なし
下邑東(2010543)	鍋中町羽根	個人住宅建築	495.78	遺跡なし
下邑東(2010543)	鍋中町羽根	個人住宅建築	970.68	遺跡なし
黒瀬大屋(2010549) ＊	黒瀬字大屋割	事務所建築	8.25	古代土師器
黒崎塚田(2010550) ＊	黒崎字塚田割	貸事務所建築	30	奈良溝／奈良土師器、奈良須恵器、奈良暗文土器
八日町(2010551)	八日町	個人住宅建築	214.11	江戸磁器
八日町(2010551)	八日町	個人住宅建築	210.24	遺跡なし
八日町(2010551)	八日町	集合住宅建築	543	遺跡なし
八日町(2010551)	八日町	集合住宅建築	828	遺跡なし
八日町(2010551)	八日町	宅地造成	798	遺跡なし
八日町(2010551)＊	八日町	不二越処理分区中市 二丁目地区下水管布 設工事	85.4	遺跡なし
八日町(2010551)＊	八日町	八日町地区配水管布 設工事	30	遺跡なし
上野井田(2010557)	二俣	病院建築	6,469.32	弥生溝、弥生土坑、奈良溝、奈良土坑／縄文土器、弥生土 器、奈良須恵器、奈良土師器、江戸唐津、江戸中国陶器、 江戸越中漸戸
山室西田(2010559)	山室	駐車場・エクステリ ア工事	85.65	遺跡なし
太田中田Ⅰ (2010567)	太田	集合住宅建築	1,195.81	古代土師器、古代須恵器、中世五輪塔(水輪)
太田中田Ⅱ (2010568)	太田字中田	障害者施設建築	513.94	遺跡なし
千里D(2010633)	鍋中町千里	宅地造成	948	遺跡なし
千里D(2010633)	鍋中町千里	個人住宅建築	229.31	遺跡なし

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
南部Ⅰ(2010636)	八尾町高日附	工場増築	357	遺跡なし
泉尾Ⅰ(2010638)	八尾町館本郷	個人住宅建築	654.08	遺跡なし
泉尾Ⅱ(2010638)	八尾町田中字五張 田	個人住宅建築	158	遺跡なし
翠尾Ⅱ・小倉中福 (2010639)	八尾町翠尾	個人住宅建築	297.55	遺跡なし
中名Ⅴ(2010649)	緑中町道場	埋設物調査	1,106.17	江戸陶磁器、明治陶磁器
任海宮田(2010654) *	任海	市道任海1号線改良工事	70	中世漁戸美濃
下熊野(2010672)	安養寺	埋設物調査	2,500.79	遺跡なし
下熊野(2010672)	安養寺	個人住宅建築	432	遺跡なし
二俣(2010674)	石田字竹花割	個人住宅建築	233.91	遺跡なし
二俣(2010674)	上野	個人住宅建築	671.16	遺跡なし
二俣(2010674) *	石田	市道石田7号線改良工事	110	古代溝／古代土師器
石田打宮(2010676)	石田	個人住宅建築	489.42	江戸越中漁戸
森田(2010686)	古岡	駐車場・資材置場造成	1,311.8	遺跡なし
森田(2010686) *	古岡	駐車場造成	2,252.63	遺跡なし
元尾(2010688)	元尾字沼割	個人住宅建築	331.29	遺跡なし
上熊野(2010689)	上熊野	個人住宅建築	385	江戸備、不明溝／古代土師器、江戸陶器
上熊野(2010689) *	杉瀬	一般県道東猪谷富山線 県単独道路改良歩道新設工事	1,000	遺跡なし
布市北(2010692)	布市	個人住宅建築	378.17	遺跡なし
布市(2010693) *	布市	車庫建築	12.08	遺跡なし
塙ノ山(2010704)	月岡町4丁目	個人住宅建築	332	遺跡なし
越本郷館跡(2010738)	八尾町館本郷	セレモニーホール建築	1,844	遺跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田	店舗兼住宅建築	415.78	古代土師器
黒田(2010744)	八尾町黒田	車庫建築	30.25	遺跡なし
塙(2010767) *	塙	配水管布設替工事	305	江戸陶器、瓦
杉瀬(2010769)	林崎	一般県道東猪谷富山線 県単独道路改良歩道新設工事	1,000	古代土師器
大井(2010773) *	大井	市道月岡青柳上今町線 外2蔵改良工事	30	遺跡なし
中大浦(2010790)	中大浦	個人住宅建築	150	古代土師器

遺跡名(遺跡No)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
藏王神社(2010851)	八尾町福島	個人住宅建築	512.36	遺跡なし
春日長走(2010887)	春日	個人住宅建築	251.22	遺跡なし
舟倉守家(2010960)	寺家	作物庫建築	189.06	遺跡なし
今生津(2011000)	布尻	中山地域総合整備 富山広域地区大沢野 工区布尻農用地改良 保全工事(仮称)	6,656	遺跡なし
柳折城跡(2011005) ＊	八尾町柳折字上 殿村	携帯電話無線基地局 新設	16	遺跡なし
庵谷・片掛銀山 (2011020)＊	庵谷	市道庵谷片掛銀法面 改良工事	236	遺跡なし
庵谷・片掛銀山 (2011020)＊	片掛	市道庵谷片掛銀法面 改良工事	229	遺跡なし
富山城下町遺跡主 要部(2011048)＊	旅籠町、越前町	越前町地区浸水対策 下水管布設工事	103.2	江戸井戸、江戸土坑、江戸構／江戸かわらけ、江戸越中漚 戸、江戸唐津、江戸伊万里、江戸越前、江戸陶磁器、江戸 石臼、江戸砥石、江戸結桶
富山城下町遺跡主 要部(2011048)＊	千石町1丁目	千石町1丁目地区浸 水対策下水管布設工 事	47.7	遺跡なし
計164件(＊44)			132,694.48	
<b>29年度、補遺(3月分)</b>				
今市(2010023)	布目	個人住宅建築	297.4	遺跡なし
米田南田(2010035)	米田町2丁目	一般県道八幡田稻荷 線県単独道路改良横 断歩道整備事業	1,075.15	弥生溝、平安溝、平安穴、平安土坑、不明／礎文土器、弥 生(中)弥生土器、弥生(後)弥生土器、綠色凝灰岩剥 片、古代土師器、古代須恵器、古代灰陶器、中世土器 器、中世土鍋、中世鐵鋤、古代土器
呉羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	459	遺跡なし
呉羽富田町 (2010182)	北代字伊佐波	個人住宅建築	241	遺跡なし
新屋殿田(2010249)	新屋	個人住宅建築	90	遺跡なし
友坂(2010429)	婦中町下条	個人住宅建築	502.91	遺跡なし
大蛇城跡(2010439)	五福	個人住宅建築	164.02	遺跡なし
大蛇城跡(2010439)	五福字城	埋設物調査	1,053	遺跡なし
黒崎植田(2010550)	黒崎字植田割、 轟川	集合住宅建築	1,287	遺跡なし
千里D(2010633)	婦中町千里	個人住宅建築	229.47	遺跡なし
上吉川I(2010635) ＊	婦中町上吉川	(仮)一般県道小倉 後倉線黒崎単独道路改 良歩道改良工事	112.9	遺跡なし
中名V(2010649)	婦中町道場	個人住宅建築	54	遺跡なし
任海宮田(2010654) ＊	任海	市道任海13号線改良 工事	41	遺跡なし
合田(2010777)	合田	個人住宅建築	306	遺跡なし
直坂(2010951)	舟新字小野割	太陽光発電設備設置 工事	3,221	織文土器、織文剥片

## II 遺跡地図管理

富山市内の史跡・埋蔵文化財包蔵地の総数は1,049ヶ所、総面積は約73.26km<sup>2</sup>です（平成31年2月末現在）。これは市域1,241.77km<sup>2</sup>の約5.90%にあたります。史跡・埋蔵文化財包蔵地は富山市遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センター窓口のほか、インターネットでも閲覧することができます。

### (1) 平成30年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等（平成30年3月～平成31年2月）

No.	遺跡名（遺跡番号）	面積（m <sup>2</sup> ）	変更内容
1	水橋池田館遺跡（2010059）	—	遺跡名の漢字修正（館→館）
2	高木西遺跡（2010093）	—	試掘調査結果により抹消
3	上新保遺跡（2010564）	216,296	試掘調査結果により範囲縮小
4	福居古墳（2010759）	2,486	現地確認により飛び地部分を除外
5	打出遺跡（2010002）	644,595	工事立会結果により範囲拡大
6	水谷Ⅱ遺跡（2010741）	—	試掘調査結果により抹消
7	前山Ⅲ遺跡（2010847）	—	試掘調査結果により抹消

### (2) 遺跡地図のインターネット公開

遺跡地図は富山市ホームページで公開し、史跡・埋蔵文化財包蔵地の範囲、名称・所在地等の概要が閲覧できます。建築・土木工事、各種開発、不動産売買の手続き等の参考にしてください。また、遺跡地図はデータを随時更新していますので、その都度ご確認ください。

閲覧は、富山市ホームページのトップページから、「インフォマップとやま」→「まちづくり情報マップ」→「遺跡地図」の順に進んでください。閲覧にあたっては利用条件をご確認ください。

※URL：<http://www2.wagmap.jp/toyama/top/>



### III 史跡の保護・管理

#### 1 北代縄文広場

##### (1) 管理

###### ① 管理運営委託等

###### A. 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。自治振興会が配置した管理人と富山市北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、縄文土器づくり（野焼きを含む）をはじめとした体験学習の手伝いなどを行いました。

###### B. 環境整備

堅穴住居の廻し（防虫・湿気対策）、広場の草刈、樹木剪定などは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。この他、機械除草、樹木伐採、トイレ小便器修繕、トイレ建具修繕、漏水修繕等を行いました。

###### ② 社会に学ぶ「14歳の挑戦」

広場管理運営補助（復元建物部分補修・縄文土器づくり用粘土の調整・広場解説案内・敷地内の除草・清掃等）※富山市北代縄文広場ボランティアの会等による指導

真羽中学校（3名） 平成30年7月3日～6日

速星中学校（4名） 平成30年7月6日

###### ③ その他

「第13回越中富山ふるさとチャレンジスタンブ

ラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）のスタンプラリーに協力しました。

平成30年4月27日～10月14日



社会に学ぶ「14歳の挑戦」

#### (2) ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	来場者数	展示解説会
1 捨て場からみえる 縄文人の暮らし	平成30年5月29日 ～11月25日	浜黒崎・野田平復遺跡出土 木製品、円盤型土製品、土 製耳飾り、蛇紋岩製玉類未 成品他	5,253人	平成30年6月9日 20名参加
2 縄文人の食生活 —小竹貝塚出土の 鳥類—	平成30年11月27日 ～平成31年6月2日	小竹貝塚出土鳥類骨、骨角 器、石器（石鏃、石匙）	1,690人 (2月末)	平成30年12月1日 15名参加

#### (3) 普及行事、講座

##### ① 北代縄文考古楽講座

平成30年6月23日 第1回講座「縄文人の認識力、表現力」

講師：小林高範主査学芸員

平成30年7月21日 第2回講座「『新しい時代』の考古学」

講師：中本八穂専門学芸員

- 平成 30 年 9 月 15 日 第 3 回講座「地磁気と考古学」  
 講師：酒井英男（富山大学名誉教授）
- 平成 30 年 11 月 17 日 第 4 回講座「古代人の精神世界」  
 講師：堀沢祐一所長

計 111 人参加

**②夏休み！きただい子ども縄文教室  
 (悠久の森 2018 連携事業)**

平成 30 年 8 月 3 日、8 月 10 日 計 54 人参加



**③文化の秋の縄文土器づくり**

平成 30 年 10 月 6 日 第 1 回講座

串田新式土器（深鉢）の成形

平成 30 年 10 月 13 日 第 2 回講座

串田新式土器（深鉢）の施文・研磨

平成 30 年 10 月 28 日 第 3 回講座

串田新式土器（深鉢）の野焼き

各回 4 人参加

講師：近藤顯子所長代理

(協力 北代縄文広場ボランティアの会)

**④文化の秋の縄文土器づくり作品展 2018**

平成 30 年 11 月 6 日～18 日 北代縄文館展示室



文化の秋の縄文土器づくり作品展 2018

**(4)長岡地区等行事**

**①長岡地区自治振興会**

縄文朝市（地元野菜等の販売）

平成 30 年 5 月～12 月の土曜日（全 12 回）

**②長岡地区ふるさとづくり推進協議会**

縄文冬まつり（世代間交流行事） 平成 31 年 1 月 19 日

**③北代三区町内会**

平成 30 年度北代三区納涼大会（世代間交流行事） 平成 30 年 8 月 4 日

**(5)来場者数**

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験	縄文グッズづくり体験	縄文コースターブルづくり体験
28	9,324 人	760 人	10,084 人	270 人	103 人	155 人
29	8,469 人	769 人	9,238 人	129 人	167 人	94 人
30 (2月末)	8,179 人	670 人	8,849 人	71 人	186 人	13 人

(参考) 平成 11 年 4 月～31 年 2 月末の来場者数累計 184,322 人

## 2 安田城跡歴史の広場

### (1) 管理

#### ① 管理等

##### A. 管理

管理人 1 名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。

##### B. 環境整備

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草・睡蓮間引き）は、公益社団法人富山市シルバー人材センター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託しました。

#### ② その他

「第 13 回越中富山ふるさとチャレンジスタンプラリー」（越中富山ふるさとチャレンジ実行委員会事務局）のスタンプラリーに協力しました。

平成 30 年 4 月 27 日～10 月 14 日

### (2) ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	来場者数	展示解説会
1	鉢物づくりのムラ —金屋南遺跡—	平成 30 年 1 月 16 日 ～6 月 23 日	金屋南遺跡出土土器、陶磁器、 金属製品、鋳造関連遺物	11,988 人	平成 30 年 1 月 19 日 7 名参加

### (3) 普及行事、講座

#### ① 歴史講座 1 「中世城館の情報連絡について－富山市のお城を中心として－」

平成 30 年 6 月 19 日 52 人参加

講師：佐伯哲也氏（北陸城郭研究会会長）



夏休み子ども歴史講座

#### ② 夏休み子ども歴史講座「秀吉と成政の戦いを見つめた

城安田城～学んだ歴史をレポートしよう～」

平成 30 年 7 月 27 日 50 人参加

講師：前田雄一郎教諭（鶴川小学校）、武部佳奈教諭（水橋西部小学校）、小倉祐介教諭（杉原小学校）

指導補助ボランティア：角田睦美氏、杉森慶子氏、野村理佐子氏



発掘速報展特別講座

#### ③ 発掘速報展特別講座「再興丸山焼と越中丸山焼」

平成 30 年 10 月 27 日 30 人参加

講師：藤田邦雄氏（石川県埋蔵文化財センター所長）

#### ④ 歴史講座 2 「鉢物づくりのムラ—金屋南遺跡—」

平成 31 年 3 月 23 日 30 人参加

講師：中本八穂専門学芸員

### (4) 安田城跡修繕整備検討事業

#### 安田城跡再整備基本計画策定会議の開催

第 1 回会議 平成 30 年 11 月 16 日 婦中行政サービスセンター

第 2 回会議 平成 31 年 2 月 20 日 婦中行政サービスセンター

### (5) 朝日地区等行事

#### ① 第 26 回安田城月見の宴（安田城月見の宴実行委員会）

平成 30 年 8 月 25 日

②朝日地区観光協会による睡蓮間引き作業

平成 30 年 8 月 12 日

朝日地区観光協会の皆様が、堀に繁茂している睡蓮の間引き作業を実施してくださいました。

(6) 来場者数

年度	個人	団体	合計
28	15,592 人	2,159 人	17,751 人
29	18,053 人	1,774 人	19,827 人
30(31 年 2 月末)	18,607 人	2,032 人	20,639 人

(参考) 平成 5~31 年 2 月末の累計来場者数 251,748 人

### 3 史跡王塚・千坊山遺跡群

(1) 維持・管理

①樹木伐採・倒木処理（千坊山遺跡・向野塚墳墓）

千坊山遺跡では、平成 30 年度に発生した暴風による旧運動場の倒木 2 本と折れ枝を搬出・処理したほか、北東斜面上の既存の倒木については、転落による事故防止のため搬出・処理を行いました。

また、向野塚墳墓では、暴風による倒木等による事故を未然に防止するため、道路や民有地の近接地にある竹林の伐採・処理を行いました。

②暴風被害対応（勅使塚古墳）

平成 30 年度に発生した台風による倒木の伐採を、富山市農林事務所農地林務課が行いました。

③除草管理

・千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・勅使塚古墳（市有地約 60,975 m<sup>2</sup>、6~10 月）

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施。

・千坊山遺跡内古里小学校旧運動場（市有地約 6,300 m<sup>2</sup>）

古里小学校 P T A のボランティアにより実施。

### 4 史跡等の巡視及び管理

(1) 文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員による定期的な史跡・埋蔵文化財等の巡視

北代遺跡・王塚・千坊山遺跡群・安田城跡・金草第一古窯跡・堀 I 遺跡・橋谷南遺跡・五百羅漢・城生城跡・主馬ヶ城跡・大道城跡・大道城（若狭城）跡・越中丸山焼陶窯跡

(2) 除草、環境整備

堀 I 遺跡（6・8・10 月）、友坂二重不整合（6・8 月）、押上遺跡・栗山塚（5・10 月）、古沢塚山古墳（7 月）、境野新遺跡（6・7 月）

公益社団法人富山市シルバー人材センターへの業務委託により実施。



樹木伐採業務完了状況（向野塚墳墓）

## IV 展示・普及

### 1 発掘速報展

#### (1) 発掘速報展 2018 Part1 「熊野川流域の古代のくらし」

会場：富山市考古資料館

期間：平成 30 年 5 月 15 日～7 月 18 日

入館者数：1,441 人

展示解説会：平成 30 年 6 月 30 日（細辻主査学芸員） 参加人数 13 名

展示遺跡：黒瀬大屋遺跡、黒崎種田遺跡

主要展示品：土師器、須恵器、墨書き土器、綠釉陶器、灰釉陶器、土錘、砥石（以上、黒瀬大屋遺跡）、暗文土器（黒崎種田遺跡）など



展示状況



展示解説会の様子

#### (2) 発掘速報展 2018 part2

##### 「焼き物でみる幕末から明治期の富山－越中丸山焼と恵比須土面－」

会場：安田城跡資料館

期間：平成 30 年 7 月 24 日～平成 31 年 1 月 14 日

入館者数：7,579 人

展示解説会：平成 30 年 7 月 29 日（鹿島専門学芸員） 参加人数 10 名

特別講演会：藤田邦雄（石川県埋蔵文化財センター所長）「再興丸山焼と越中丸山焼」

平成 30 年 10 月 27 日 参加人数 30 名

展示遺跡：千石町遺跡、越中丸山焼陶窯跡

主要展示品：中世土師器、近世かわらけ、瀬戸美濃、唐津、伊万里、珉平、越中瀬戸、越中丸山（出土品、個人蔵）、小杉、土人形、恵比須土面など



展示状況



特別講演会

## 2 兼務関係施設の企画展

(1) 富山市考古資料館（民俗民芸村所管：小林主査学芸員・細辻主査学芸員兼務）

テーマ等	期間	主要展示品・関連行事等	来館者等
企画展 「山と鉱山遺跡」	平成30年7月21日 ～12月16日 (149日間)	薊師岳山頂遺跡採取青磁・奉納剣・刀子・鉄くぎ・銅製品、立山町天狗平採取石織、立山町みくりが池採取銅鏡、亀谷銀山遺跡採取陶磁器・奉納剣・鉱滓・石製分銅・徳利、長棟鉛山鉱山遺跡採取陶磁器・鉱滓・奉納剣・棟札、吉野銀山遺跡採取陶磁器・石槌・磨臼・鉱滓・庵谷・片掛銀山遺跡採取鉱滓・鉱石・石槌	2,485人
	平成30年7月28日	展示解説会（細辻主査学芸員）	13人
	平成30年9月30日	記念講演会「金銀山の島～新潟県佐渡島の鉱山遺跡を掘る～」佐渡市世界遺産推進課の相羽重徳氏による講演会	31人

## 3 講座

(1) 富山市民大学（富山市民学習センター主催）

### ①いのりの考古学

回	講師	学習題	開催月日
1	小林高範主査学芸員	縄文人のいのりの道具	5月 18日
2	大野英子専門学芸員	【現地学習】史跡王塚・千坊山遺跡群の古墳探訪	6月 1日
3	堀内大介主査学芸員	農耕祭祀から政治的祭祀へ	6月 15日
4	鹿島昌也専門学芸員	古墳から寺院へ	7月 6日
5	小黒智久主査学芸員	【現地学習】古沢塚山古墳 (酷暑により、市民学習センターでの講義に変更)	7月 20日
6	細辻嘉門主査学芸員	遺構からみた神社	9月 14日
7	堀沢祐一所長	古代のまじない	9月 28日
8	近藤頴子主幹学芸員	中世の墓	10月 12日
9	野垣好史主査学芸員	富山藩 前田家墓所 長岡御廟所	10月 26日
10	中本八穂専門学芸員	近世以降のいのりの形	11月 9日
②郷土の歴史			
1	堀沢祐一所長	古代の木製祭祀遺物について	5月 10日
③郷土史（大沢野プラネット）			
2	中本八穂専門学芸員	大沢野の遺跡－ひとびとのくらしの痕跡－	5月 17日

(2) 市役所出前講座

### 遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	中本八穂専門学芸員	史跡にみる吳羽地域の特徴	吳羽地域公民館連絡協議会／吳羽会館	60	4月 20日
2	小林高範主査学芸員	太田地区周辺の遺跡	富山市太田校下ふるさとづくり推進協議会／太田地区センター	50	6月 14日
3	鹿島昌也専門学芸員	富山城下町遺跡出土“幻の東京五輪記念盃”は壳巻進物か！？	水橋西部ふるさとづくり推進協議会／水橋玉永寺	30	6月 20日
4	中本八穂専門学芸員	鞆坂の歴史	分田公民館 サロン分田／分田公民館	38	7月 8日

5	堀沢祐一所長	顔が描かれた土器の謎	富山市公民館連絡協議会 第6ブロック協議会／富山市立奥田北公民館	23	9月7日
6	鹿島昌也専門学芸員	千石町遺跡出土の恵比寿土面について	日本海文化懇親会／豊榮稻荷神社社務所	20	9月28日
7	野坂好史主査学芸員	富山城石垣調査から	富山市観光協会／富山城址公園	40	11月15日
8	堀内大介主査学芸員	白鳥城址について	呉羽山観光協会／白鳥城址	20	11月27日
9	近藤穎子主幹学芸員	富山城の歴史について	朝日自治振興会・社会福祉協議会・ふるさとづくり推進協議会合同研修会／呉羽ハイツ研修室	25	11月30日
10	堀沢祐一所長	校区の石塔や石仏について	西田地方校下ふるさとづくり推進協議会／富山市立西田地方公民館	23	1月28日
11	小黒智久主査学芸員	きんたろうの森周辺の古墳実地調査	NPO法人きんたろう倶楽部	15	3月20日

### (3) 北代縄文考古学講座（会場：北代縄文広場 北代縄文館体験工房）

回	講師	演題	参加者数	月日
1	小林高範主査学芸員	縄文人の認識力、表現力	30	6月23日
2	中本八徳専門学芸員	「新しい」時代の考古学	30	7月21日
3	酒井英男富山大学名誉教授	地磁気と考古学	25	9月15日
4	堀沢祐一所長	古代人の精神世界	26	11月17日

## 4 その他

### (1) 社会に学ぶ 14歳の挑戦

速星中学校3名 平成30年7月2日～7月6日

指導ボランティア 小林高範主査学芸員

【体验内容】 西金屋高山窯跡出土品整理、北代縄文広場堅穴住居補修・広場管理、安田城跡資料館展示替え・広場草刈など

### (2) マスコミ取材対応

- ①上巻負ケーブルテレビ「かみねいアワー」－「発掘速報展2018 part2『焼き物でみる幕末から明治期の富山一越中丸山焼と恵比寿土面』」展示解説会  
平成30年8月4日～10日（各日とも4回放映） 鹿島専門学芸員
- ②北日本放送「ジョブキッズとやま 遺跡のしごと」の活動内容 平成30年8月14日  
堀沢所長・細辻主査学芸員
- ③「富山城下町遺跡出土の中国陶磁器について」 北日本新聞 平成31年1月7日／  
読売新聞 平成31年1月16日 鹿島専門学芸員

## V 刊行物

### 1 発掘調査報告書

- No.95 富山城跡発掘調査報告書(2018,10)
- No.96 米田南田遺跡発掘調査報告書(2019,3)
- No.97 富山市内遺跡発掘調査概要20(2019,3)
- No.98 富山市内遺跡発掘調査概要21(2019,3)

## 2 PR誌・展示図録等

富山市の遺跡物語 No. 20 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報（2019.3）  
北代縄文通信 第47号（2019.3）

## VI 活用

### 1 出土品貸出

	貸出先	展示名	展示期間	資料名
1	富山県埋蔵文化財センター	「ふれる標本箱タッチ・ザ・DOKI」での展示活用	30.4.1～31.3.31	岩瀬天神遺跡縄文土器ほか29点
2	富山市郷土博物館	企画展「神保の城 佐々の城－富山市内の戦国城館一」	30.4.21～30.6.24	小出城跡・新庄城跡・富山城跡・願海寺城跡出土かわらけほか、約60点
3	射水市新湊博物館	企画展「思い出のおもちゃ」	30.6.29～30.9.18	水橋金広・中馬場遺跡出土双六盤ほか23点
4	富山市陶芸館	企画展「越中瀬戸焼・小杉焼・越中丸山焼－富山城下町出土資料からの視点を加えて－」	30.9.8～30.11.28	富山城下町出土陶器・越中丸山焼陶窓跡出土陶器178点

### 2 写真等資料掲載

- (1)小竹貝塚発掘調査風景写真1点 新泉社『シリーズ遺跡を学ぶ 小竹貝塚』(平成30年9月15日刊行)
- (2)開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡出土土器写真2点 テレビ朝日『ソノサキ』 10月9日
- (3)北代遺跡の復元第70号住居写真1点 洋泉社『歴史REAL』11月号
- (4)富山城の石垣資料一式 富山市観光協会『富山城石垣マップ』(平成30年12月7日発行)
- (5)小出城跡出土炭化米写真1点 高橋健『おにぎりの文化史-おにぎりはじめて物語-』河出書房新社(平成31年4月刊行予定)

### 3 資料調査・見学等

- (1)平成30年4月15・16日 東洋陶磁学会 水本和美氏他9名 富山城・城下町遺跡出土の近世陶磁器
- (2)平成30年8月9・10日 富山大学人文学部考古学研究室学生2名 杉谷1番塚古墳出土土器及び石器 『杉谷1番塚古墳』報告書(平成31年12月刊行予定)掲載のため
- (3)平成30年9月14日 新潟市文化財センター 今井さやか氏他1名 越中瀬戸焼調査
- (4)平成31年2月7日 奈良文化財研究所 小田裕樹氏 水橋金広・中馬場遺跡出土双六盤他
- (5)平成31年3月8日 台湾中央研究院地球科学研究所 飯塚義之氏 梶谷南遺跡出土瓦

## VII 調査研究

### 1 調査協力・共同研究

- (1)石川県金沢城調査研究所

平成30年7月18日 第1回金沢城関連城郭等情報連絡会 報告「富山城・城下町の2018年度調査等予定について」 野垣好史主査学芸員

- 平成 30 年 9 月 19 日 第 2 回金沢城関連城郭等情報連絡会 報告「富山城の庭園について」  
野垣好史主査学芸員
- (2) (公財)石川県埋蔵文化財センター 環日本海文化交流史調査研究事業  
平成 30 年 10 月 19 日 研究協力者会議 堀内大介主査学芸員
- 平成 31 年 2 月 22 日、23 日 研究集会「北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相 一城下町とその周辺遺跡の土師器皿（かわらけ）を中心にー」報告「越中における近世成立期の土師器皿の諸様相—富山城跡出土資料からー」堀内大介主査学芸員
- (3) 明治大学  
平成 30 年 12 月 15 日 科学研究費補助金基盤研究（A）「日本墨書土器データベースの全国的達成」にかかる第 3 回研究報告会 報告「越中国から見た人面墨書土器」堀沢祐一所長

## 2 論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関するものを含みます

### (1) 関係職員等

- 小黒智久 2019.3a 「大型古墳被葬者の埋葬時期と政治／経済的活動時期」『磨斧作針－橋本博文先生退職記念論集－』 六一書房
- 小黒智久 2019.3b 「上越地域における後期・終末期古墳の再検討」『新潟考古』第 30 号 新潟県考古学会
- 小黒智久・萩原大輔 2019.3 「中世富山城跡の神保長職による『自落』痕跡と派生する諸課題」『富山市の遺跡物語』第 20 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 鹿島昌也ほか 2018.6 「富山県 地方史研究の動向」『信濃』第 70 卷第 6 号 信濃史学会
- 鹿島昌也 2019.2 「富山城・城下町遺跡出土品の再検討」『富山史壇』第 188 号 越中史壇会
- 鹿島昌也・新宅輝久 2019.3 「富山城下町遺跡出土の搬入陶磁器について（総曲輪フェリオ地区）」『富山市の遺跡物語』第 20 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 納屋内高史・宮田康之 2018.11 「考古資料・文献から見た富山城・城下町の食文化について」『富山史壇』第 185 号 越中史壇会
- 納屋内高史 2019.3 「出土資料から見た近世富山の食文化」『富山市の遺跡物語』第 20 号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 西井龍儀・野垣好史・田上和彦 2018.11 「奥羽丘陵明神山・五時谷付近の遺構調査」『論集富山城研究』2 富山城研究会
- 野垣好史 2018.11 「幕末から近代の石垣修理」『論集富山城研究』2 富山城研究会
- 藤田富士夫 2018.5 「古代越中国と越後国の国境『神濟』の所在について」『人文社会科学研究所年報』第 16 号 敬和学園大学
- 藤田富士夫 2018.6 「神の水平束臨型祭祀の諸相」『野外調査研』第 2 号(通巻第 27 号) 野外調査研究会
- 藤田富士夫 2018.6 「とやまの考古学を築いた先覚者たち」『埋文とやま』VOL. 143 富山県埋蔵文化財センター
- 藤田富士夫 2018.7 「神体山の聖域性と墓所造営」『明日香 40 周年記念号』第 40 号 明日香村文化協会
- 藤田富士夫 2018.9 「块飾型垂飾品について」『玉文化研究』第 3 号 日本玉文化学会
- 藤田富士夫 2018.10 「森先生と『日本海学』』『三角縁神獸鏡を考える』第 6 回東海学シンポジウム 2018 NPO 法人東海学センター
- 古川知明 2018.5 「富山藩主前田家墓所長岡御廟所宝室墓石造物調査報告書」 富山石文化研究所
- 古川知明 2018.8 「富山藩主前田家墓所長岡御廟—富山藩主十二代の墓所を探るー」 富山石文化研究所
- 古川知明 2018.11a 「七面堂周辺の題目塔群」『論集富山城研究 2』 富山城研究会
- 古川知明 2018.11b 「富山藩期の石垣修理」『論集富山城研究 2』 富山城研究会

古川知明 2018.11c 「前田利長墓所築造にかかる富山藩石材運搬助役」『論集富山城研究2』

富山城研究会

古川知明・野垣好史・萩原大輔 2018.11d 「富山城・城下町関連文献目録」『論集富山城研究2』

富山城研究会

堀内大介 2018.5 「平成29年度環日本海文化交流史調査研究集会の記録 富山県（富山城跡・富山城下町遺跡主要部）の様相」『石川県埋蔵文化財情報』第39号 （公財）石川県埋蔵文化財センター

堀内大介 2019.2 「越中における近世成立期の土器師皿の諸様相—富山城跡出土資料から—」『北陸にみる近世成立期の土器・陶磁器様相 一城下町とその周辺遺跡の土器師皿（かわらけ）を中心に—発表要旨・資料集』 （公財）石川県埋蔵文化財センター

堀沢祐一 2019.3 「続・顔のない人面墨書き土器」『富山市の遺跡物語』第20号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

町田賢一 2018.9 『シリーズ遺跡を学ぶ 小竹貝塚』 新泉社

## （2）市内遺跡を取り扱ったもの

久保尚文 2018.2 「越中神保氏歴代の概説と研究史—慶宗期と長職・氏張・長住期、付小島職鎮—」『富山史壇』第185号 越中史壇会

島田亮仁 2017.5 「VI 研究レポート／2 富山県内の绳文遺跡における古植生」『平成28年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所

武内淑子 2018.11 「長岡御廟の配置から見る歴代藩主の想い」『論集富山城研究』2 富山城研究会

町田賢一 2017.5 「VI 研究レポート／1 土器圧痕から見た縄文前期」『平成28年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財事務所

町田賢一 2018.6 「VI 研究レポート／1 富山県における縄文土器の大きさ」『平成29年度埋蔵文化財年報』公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課

## 3 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関するものを含みます

小林高範「薬師岳、有峰などの奉納剣について」大山歴史民俗研究会総会 平成30年4月21日

納屋内高史・宮田康之「考古資料・文献から見た富山城・城下町の食文化について」平成30年度越中史壇会研究発表大会 平成30年8月19日

## VIII 研修等参加

### 1 平成30年度記念物保護行政担当者会議

文部科学省講堂（東京都） 大野専門学芸員 平成30年7月4日～7月5日

### 2 平成30年度全史協北信越地区協議会役員会・総会・研修会

能都町（石川県） 中本専門学芸員 平成30年7月12日～7月13日

### 3 平成30年度文化財担当者専門研修「地質考古調査課程」 細辻主査学芸員 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 平成30年9月3日～9月7日

### 4 平成30年度第3回報告書データベース作成に関する説明会 堀内主査学芸員 石川県地場産業振興センター 本館2階第2研修室 平成30年12月20日

### 5 「近世考古学の提唱」50周年記念研究大会 鹿島専門学芸員 大阪歴史博物館 平成31年2月9日～2月11日

### 6 平成30年埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会 鹿島専門学芸員、堀内主査学芸員、小黒主査学芸員、野垣主査学芸員 富山県埋蔵文化財センター 平成31年3月5日

## IX 寄贈

### 1 黒田紀代氏寄贈品

考古資料 407 点

(平成 31 年 1 月 15 日に受入)

富山市北代在住の黒田紀代氏より、昭和初期に故黒田伸一氏が富山市蜆ヶ森貝塚・北代遺跡などにて採集された土器類（縄文土器・土錐・須恵器など）290 点、石器類（石棒・磨製石斧など）117 点の総計 407 点の寄贈を受けました。

(中本八鶴)



寄贈品（土器・石器）

## X 組織・事業費

### 1 組織



### 2 事業費 (平成 30 年度当初)

總経費	148,777 千円
① 埋蔵文化財調査事業費 (内訳) 埋蔵文化財調査費	30,264 千円 15,160 千円
普及事業費	224 千円
施設管理事務費	14,880 千円
②文化財保護事業費 (内訳) 文化財保護事業費	21,672 千円 9,203 千円
施設管理事務費	12,469 千円
③一般管理事務費	96,841 千円

堀沢 祐一  
(埋蔵文化財センター所長)

## はじめに

「顔のない人面墨書き土器」とは、土器に顔を描かない人面墨書き土器(以下、人面土器とする)のことである。この土器は、平城京や長岡京などの都城では大量に出土しており、都城の人面土器を分析した上村和直氏は「無顔人面土器」と呼称している(注1)。

以前、筆者は「顔のない人面土器」が都城以外でも出土していると考えておらず、越中国や伊豆国、河内国など他国の事例について検討したことがある(注2)。今回は、その時に検討対象とした国やそれ以外の国においても、「顔のない人面土器」が存在する可能性が高く、前回の報告を踏まえ、そのことについて触れてみたい。

## 1 越中国の事例

現在のところ、越中国の人面土器は、8遺跡から約30点が出土しており、日本海側諸国では最多の点数を誇っている。越中国で「顔のない人面土器」が存在していることはすでに指摘している。この背景について、越中国では8世紀前半頃から人面土器が確認されており、早い段階からこの土器を受け入れていることや周辺諸国と比較して人面土器の出土遺跡、点数が多いことから国家主導による律令期祭祀遺物の導入が行われたためと考えている。

ここでは、近年の越中国の調査事例から同様の土器が確認できるため、まずはそれについて触れておきたい。

### (1) 富山県高岡市出来田南遺跡(図1)

本遺跡は富山県高岡市出来田に所在する。8世紀後半から9世紀前半の堅穴建物(11棟)、掘立柱建物(58棟)、大溝、井戸などが検出されている。人面土器は、平均幅10m前後、深さは最深1.3mの大溝から約9点(図1の1~14、9~14は同一個体とされている)が出土している。現在のところ越中国では、最多の出土点数になる。また、木製祭祀遺物は斎串1点、馬形2点、舟形2点が伴う。ちなみに、大溝からは、荷札・呪符・習書木簡が各1点、「酒万呂」「酒麿」「秋万呂」「安万呂」「友田土」「五十」「金手」「上川邊」「川邊」「専」「大家」「采女」「岡」「正月」などの墨書き土器が約70点出土している。

人面土器に使用されている土器はすべて土師器小型甕で、口径が8cm台と13~16cm台に分かれる。描かれる顔は2面と想定される場合や4面がある。時期は8世紀後半~9世紀前半とされている。

この大溝から、ほぼ完形の土師器小型甕(図1の15)。口縁部破損、器高12cm)が出土している。この土器には墨書きが認められず、「顔のない人面土器」と考えている。この遺跡を含めて、越中国では、4遺跡で顔のない人面土器が確認されており、この土器を使用するにあたり都城の風習が浸透していることを表していると考えている。

本遺跡について、報告書では「地方における律令期拡大期ならではの社会的要請に応じた在地豪族層の関連施設」、あるいは「中核的施設」と位置付けている。

## 2 他の事例

次に、越中国以外の事例について触れておく。

### (1) 京都府木津川市釜ヶ谷遺跡(図2)

本遺跡は京都府木津川市大字木津小字釜ヶ谷に所在し、旧国名は山城国にあたる。人面土器は、奈良時代の自然流路(NR01、幅約2.1~3m、深さ約0.4~1.1m)から17点(図2の1、2、7、8、24~28、37、38)が出土している。人面土器には、土師器の小型甕や甕、把手付甕

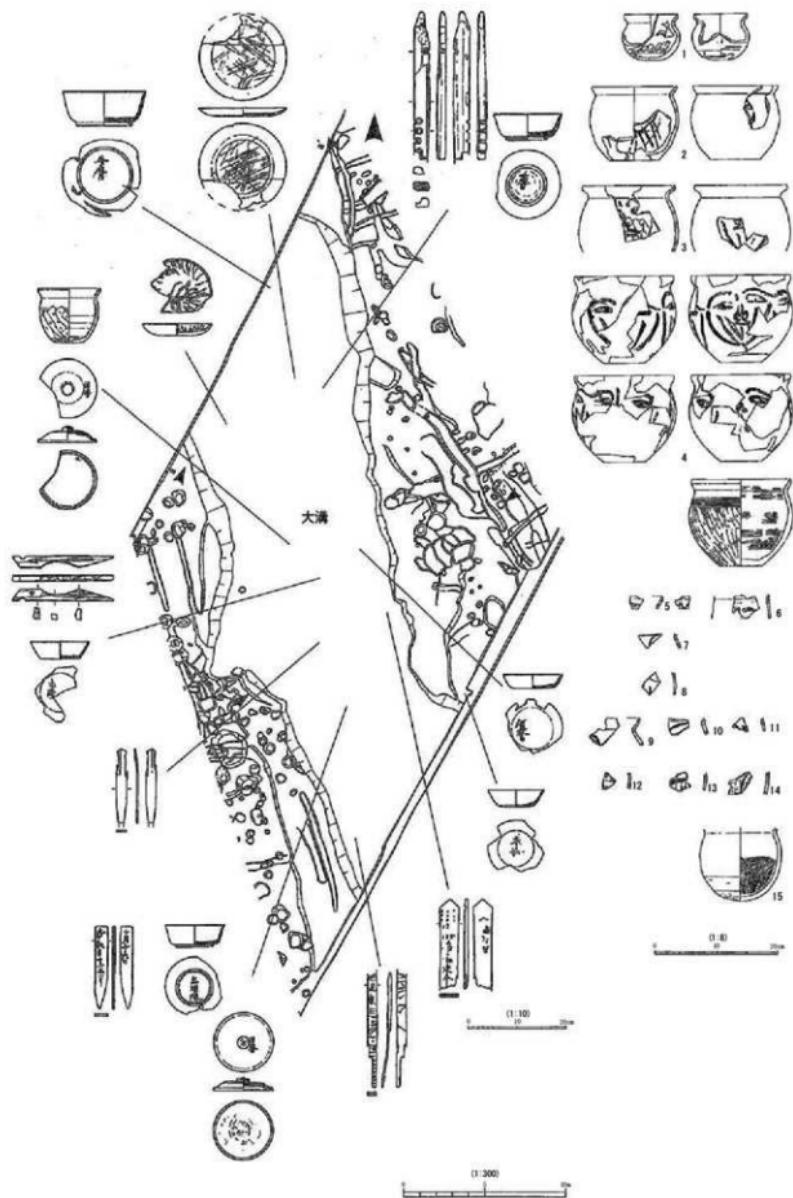


図1 出来田南遺跡 祭祀遺物等出土大溝 (S=1:300, 遺物はS=1:10)・人面墨書き土器 (S=1:8)

などを使用しており、図2の1はカマコ状の土師器を2個体口縁で接合し、俵形に作り上げた土器であり、珍しい器形である。小型壺は口径と器高によって3タイプに分けられている。Aタイプは口径8~10cm、器高5~6cm、Bタイプは口径11~13cm、器高7~9cm、Cタイプは口径12~16cm、器高13cmである。全体像がわかる土器を見ると、顔は1面、2面、3面を描いている。中には、交叉する線表現を墨書きした土器（図2の3~6）もある。

また、NR01からは、木製祭祀遺物として人形1点（図2の36）、斎串33点がある。ちなみに、人形は長さ約1.2mの大型品である。合わせて、土馬5点（図2の23、63）、瓶・カマドのミニチュア品19点（図2の22、33、35、58、59、62）、カマコ10点（図2の20、21、34、60、61）が出土している。人面土器を含めたこれらの祭祀遺物は、奈良時代前半～中頃とされ、NR01の出土地点において構成に差がみられる。6btでは、人面土器、人形、斎串、ミニチュアカマド類などが一括して出土している。また、13・15btから17・18・21btにかけては、Aタイプの小型壺の出土が顕著であり、土馬の出土点数も多い。

さらに、小型壺と把手付甕について報告書では「墨書き人面土器に類するものの内、墨書きが確認できなかつた例」として38点（図2の9~19、29~32、39~57）が報告されている。つまり、「顔のない人面土器」が存在していると考えられる。

このように、山城国でも「顔のある人面土器」と「顔がない人面土器」を同時に使用していたと考えられる。報告書に掲載されている人面土器に関する土器の「顔あり」と「顔なし」を比較すると、顔が描かれる土器は3割程度で、ほとんどが顔の描かれていないことになる。

本遺跡は大和国との国境に近く、人面土器に大和型土馬やミニチュアカマド類が共存し、都城での祭祀遺物構成と類似しており、祭祀時期が奈良時代前半から中頃とすると平城京と強く関わっている可能性がある。また、北西約2kmには木津川を挟んで山城国府推定地が所在しており、山城国府との関係も想定される。

## （2）大阪府大阪市長原遺跡（図3）

本遺跡は大阪府大阪市平野区長吉出戸に所在する。旧国名は河内国である。人面土器は、奈良時代の自然流路（NR501）から16点が報告されている（報告書には、後述する直線や弧線を描いた土器や小片を含めた場合「相当な数にのぼる」と記載される）。人面土器に使用されるのは、主にミニチュア甕（図3の1、8、33~35、口径7~11cm、器高4.7~10.5cm）と中型甕（図3の2、9、36、37、67、口径13.2~19cm、器高11~13.7cm）である。これらの甕は「中、南河内地域通有のもので、都城型とされるものは皆無である」と指摘されており、在地の土器を祭祀に使用していると考えられる。顔は2面ないし4面が描かれ、口縁部に波状の文様を配する場合もある。また、顔ではなく、直線や弧線を描いた土器も見られる（図3の6、10~14、38~41）。これら土器の時期は8世紀第II四半期とされる。

また、木製祭祀遺物は斎串が1点、牛馬骨が大量（破片数でウシは133点、ウマは197点）に出土している。合わせて、瓶、甕、高坏、竈のミニチュア土器が13点（図3の25~27、31、32、56、57、58、66、68）ある。

人面土器に使用されている土器で墨書きのないものも存在しており、器形や胎土が共通する場合が多いとされる。ちなみに報告されているミニチュア甕は38点（図3の3~5、15~20、29、30、42~50、60~64）、中型甕は21点（図3の7、21~24、51~55、65）である。おそらく「顔のない人面土器」と考えられる。

このように、河内国においても、顔が描かれる人面土器と顔が描かれない人面土器が同時に使用されていると考えられる。また同国では大阪府寝屋川市の讃良郡条理遺跡、小路遺跡でも、同様の事例があり、前回の時に報告済みである。

なお、本遺跡の人面土器については「墨書き土器が普及する比較的早い段階にこれらを用いた大がかりな祭祀が行われていることは、長原遺跡と都との関係の深さを示唆する」と指摘されている。

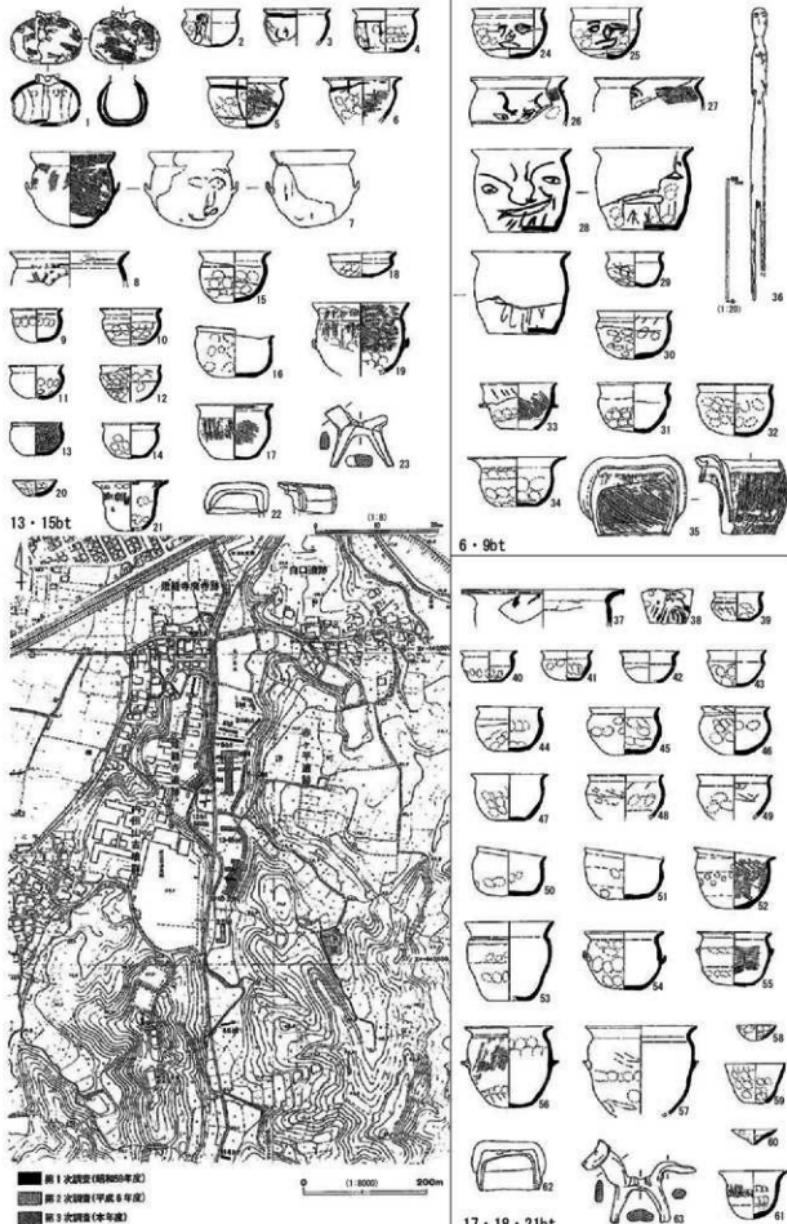


図2 釜ヶ谷遺跡 トレーナー位置図 (S=1:8000)・祭祀遺物 (S=1:8、ただし人形はS=1:20)

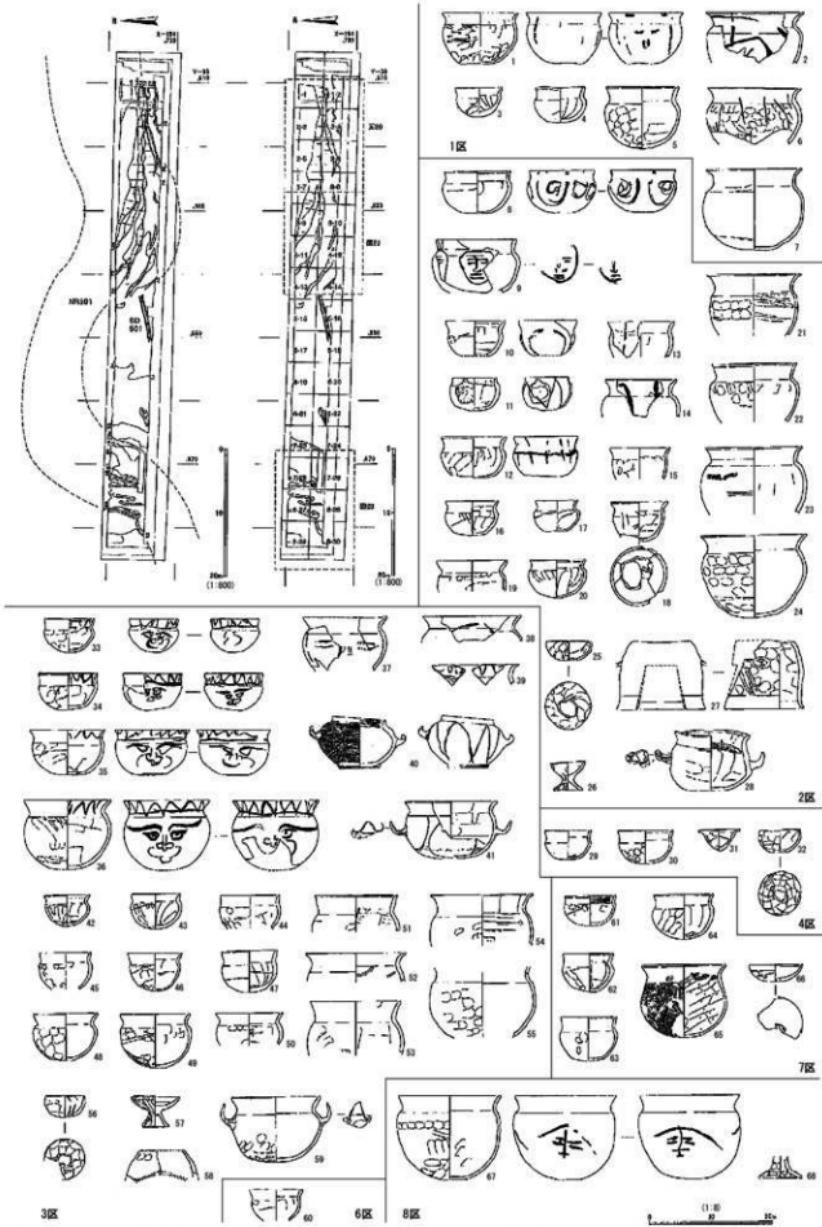


図3 長原遺跡 祭祀遺物出土溝 (S=1:800)・祭祀遺物 (S=1:8)

### (3) 福島県いわき市荒田目条理遺跡(図4)

本遺跡は、福島県いわき市平賀波字礼堂に所在する。当初は、多珂国に属しており、白雉4(653)年に岩城評(郡)が、多珂評から分割設置された後陸奥国に属する。養老2(718)年に岩城国が独立設置され、その後養老5(721)年頃に再度陸奥国に編入したとされる。本遺跡の人面土器の時期は8世紀後葉であり、当時は陸奥国に該当する。

人面土器(図4の1)は、古墳(5世紀中葉)～平安時代(12世紀)の河川跡(第3号溝跡、幅5～10m前後、深さ1～1.5m前後)から1点出土している。土師器の鉢を使用しており、体部に顔と「磐城口 磐城郷 大部手子庶 召代」の文字墨書がある。人面土器が出土している時期には、「屋」の墨書き土器、絵馬などが伴う。

本溝では、図4の2の土師器鉢があり、報告書では「製作技法や胎土などの様相が、人面墨書き土器に似ている」とされており、墨書きなく「顔のない人面土器」の可能性がある。口径が約14cmで、本遺跡の人面土器の鉢よりは小型である。

平安時代(9世紀)の第3号溝跡からの出土遺物量が最多との報告がある。特に、土師器や須恵器の完形品の杯類が多く、甕や壺は少ないとされる。また、「第3号溝跡から検出された土器のほとんどは、基本的に、日常使用したものを、廃棄の目的で単に投機したものではなく、それ以外の祭祀などの目的で、投機されたものと理解している。その理由は、出土土器に完形品が多いこと、墨書き土器や刻書土器が300点と多いこと、石製品・土製品・木製品などの祭祀具が多いこと、土師器杯など遺物に摩耗がないものが多いことなどである」と述べられている。今回の報告で着目している土師器の甕、そのものに対して指摘されている訳ではないが、図4の6は9世紀中葉の年代が与えられており、畜串や人形などの木製祭祀遺物(図4の7～16、畜串29点、人形18点、馬形3点、舟形2点、刀形1点、陽物形1点)と共に「顔のない人面土器」として使用された可能性があると考えている。

本遺跡の南東方向約1.5kmの地点には、磐城郡家と推定されている根岸遺跡や郡寺とされる夏井庵寺が所在している。報告書では「第3号溝跡であるが、それは磐城郡家を中心として磐城郡内に張り巡らされた水上交通網の一端であり、古代の運河と推定した。その一方で(中略)、祭祀の受け皿であり、この地は祭祀の場であるとも推定される」と考察されており、この祭祀の背景には、磐城郡家の存在が想定される。

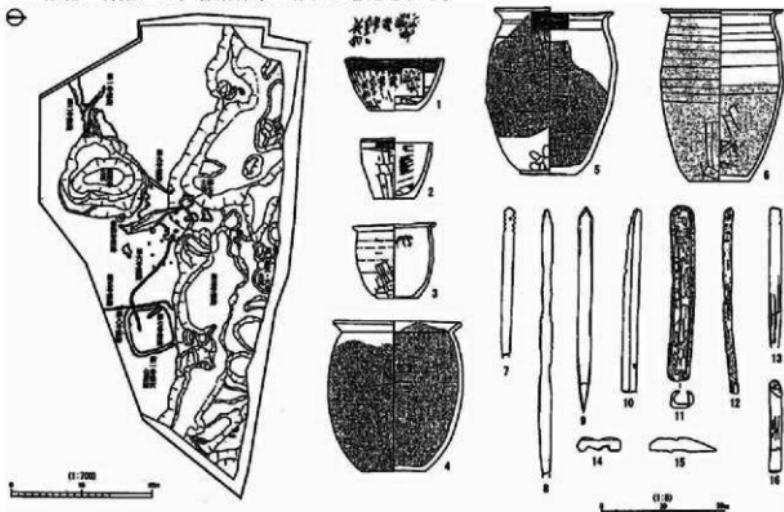


図4 荒田目条理遺跡 造構配置図 (S=1:700)・祭祀遺物 (S=1:8)

#### (4) 宮城県多賀城市市川橋遺跡(図5)

本遺跡は、宮城県多賀城市市川に所在する。旧国名は陸奥国であり、8世紀前半から11世紀前半にかけて陸奥国府として東北経営の中心的役割を果たした多賀城の南と東側に広がる遺跡である。今回の報告の対象とする調査は、多賀城跡南門の南方約300m地点である。

人面土器は、河川跡 SD5021 (SD5161A と同一)、SD5055 (SD5161B と同一) から68点が報告されている。時期は8世紀後半～9世紀である。

SD5021(幅約7m、深さは3m前後)から41点が出土している。土師器甕が使用され、非ロクロ調整(図5の1、2)とロクロ調整(図5の3～5)の土器がある。須恵器杯も用いられる。顔は、土師器では全体がわかるものでは、2面が描かれている。また、須恵器では4面描かれる土器もあり、全身を描く場合や「太郎口益女」などと文字が伴う土器もある。

また、SD5021では、木製祭祀遺物として斎串20点、人形8点、馬形1点、舟形1点、刀形4点、卜骨21点が伴っている。文字の墨書き土器は約620点出土しており、その内容は「伊」「王」「上」「田」「南」「酒」「秦」「厨」「兵」「廳」「松竹」「松竹内」「上万呂」「日月」「毛合」「信夫」「鳴足」「宮木」「日理郡口浜駅家厨」などである。

SD5021からは、完形もしくはほぼ完形の土師器鉢が22点(図5の6～27)、土師器長胴甕が2点(図5の28、29)報告されている。これら土器には墨書きがなく、人面土器や木製祭祀遺物に伴っていることから、「顔のない人面土器」と考えられる。

また、平安時代のSD5055(幅約30m、深さ約2.5m)でも、同様の使用が確認でき、27点の人面土器が報告されている。使用される土器はSD5021同様、土師器甕(ロクロ調整:図5の32～34、非ロクロ調整:図5の35)と須恵器杯(図5の31)である。須恵器杯は1点のみである。全体がわかる土器では、顔が2面もしくは、2面以上が描かれる。文字墨書きが書かれる土器もあり、土師器甕には顔とともに「□仁九年六月六日上□」と年号が書き込まれる。木製祭祀遺物は人形が4点、「伊」「王」「上」「田」「南」「厨」「日理」「松竹内」などの文字墨書き土器が約440点出土している。

SD5055からは、完形の赤焼土器が2点(図5の36、37)あり、これら土器には、顔は描かれないと想定され、陸奥国においても顔を描かない人面土器が、顔のある人面土器とあわせて使用されていると考えられる。

国府多賀城の祭祀について考察した柳澤和明氏は「諸國大祓に用いたとみられる斎串、人形・馬形など木製形代は国家的な祭祀とみられ、中央派遣の大祓使の関与が想定される。人面墨書き土師器甕についても都城での木製祭祀具との共伴状況をみれば、これらとともに用いる可能性がある」と指摘している(注3)。

### 3 まとめ

このように、前回の報告時に出土が確認されていた越中国や河内国では、他遺跡から同様の事例が確認できた。また、新たに山城国と陸奥国においても顔を描かない人面土器が存在していることが明らかになった。山城国、陸奥国はともに人面土器の出土事例が多く、前回報告で指摘したように人面土器が定着している国と考えられる。そのような国においては、都城と同様に「顔のある人面土器」と「顔のない人面土器」を使用していると考えられる。

陸奥国では多賀城周辺に位置する市川橋遺跡や山王遺跡から、破片を含めて300点近くが出土している。都城や畿内以外の地域では最多の出土を誇り、中央との関与が指摘されいる。また、山城国と河内国はともに畿内であり、都城に近く、早い段階からの人面土器の受容や、大型土馬やミニチュアカマド等が出土することから、都城との強い関係が想定される。

山城国、河内国、陸奥国、越中国においては、都城(中央)との関わりの中で、顔を描く人面土器を受け入れ、さらには都城的な要素が濃く見られる「顔のない人面土器」を使用する風習を理解して合わせて受容したと考えられる。

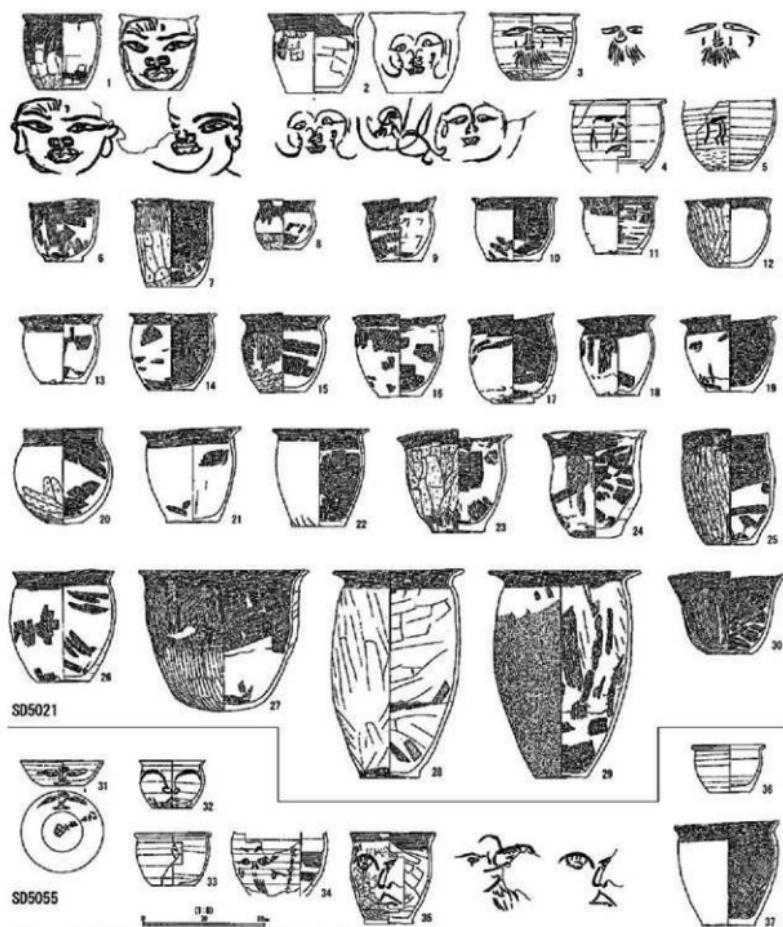


図5 市川橋遺跡の面墨書土器 (S=1:8)

注

- (1) 上村和直 1994 「都城出土人面墨書土器に関する二、三の問題」『文化財学論集』
- (2) 堀沢祐一 2009 「越中国から見た人面墨書土器」『一山典還賀記念論集 考古学と地域文化』
- (3) 柳澤和明 2011 「国府多賀城の祭祀」『東北歴史博物館研究紀要12』

文献

- いわき市教育委員会、財團法人いわき市教育文化事業団 2001 『荒田目条理遺跡－古代河川跡の調査－』いわき市埋蔵文化財調査報告第75冊  
 公益財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 2015 『出来田南遺跡発掘調査報告書－都市計画道路能町庄川線街路総合交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘報告II』富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告第66集  
 財團法人大阪市文化財協会 2004 『大阪府平野区長原遺跡東部地区発掘調査報告VII』  
 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996 『京都府遺跡調査概報第68冊』  
 財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996 『京都府遺跡調査概報第73冊』  
 宮城県教育委員会、宮城県土木部 2001 『市川橋遺跡の調査－県道『泉－塙釜線』関連調査報告書III－』宮城県文化財調査報告書第184集

小黒 智久・萩原 大輔  
(埋蔵文化財センター主査学芸員)・(郷土博物館)

### はじめに

富山市婦中安田城跡歴史の広場のガイダンス施設、安田城跡資料館では平成30年1月23日から7月1日までミニ企画展「秀吉の越中出陣前後の婦負一白鳥城・安田城・大峪城・安養坊砦、そして富山城」を開催した。同展では、天正13年(1585)に羽柴秀吉が行った、富山城主の佐々成政を討つための越中出陣、世にいう「佐々攻め」に着目し、総勢7万人に及ぶ大軍を動員した越中出陣にかかる富山市域の城や砦の様相について、文献史学の最新の研究成果(萩原2010a・b、2012、2016など)も踏まえ、発掘資料や縄張り図等で紹介した。

展示構成の検討過程で、富山城跡発掘調査のうち中世富山城の堀跡に関わる調査所見を再検討し、史料や文献史学の研究成果とも照合した結果、従来の考古学的解釈とは異なる標記の新解釈で捉え直すべきと判断し、その方針の下で展示した。発掘調査所見の再検討は小黒(考古学)が担当し、萩原(文献史学)との間で意見交換を重ね、両名で新解釈を導き出した。本稿では検討過程を含めて新解釈を示し、派生する諸課題をまとめて戦国史研究の深化につなげると共に、諸賢の批判的検証につながる資料の提示を目的とする。本稿は両名の協議に基づき作成し、文末に文責を記した。

(小黒)

### 1 中世富山城跡(富山城址公園区域)の概要

**全体像** 富山城跡試掘確認調査報告書(富山市教育委員会2004・2006・2007・2008・2009)で示された調査所見を再検討し、中世富山城に伴うと判断した遺構の分布模式図と試掘確認調査地点を図1に示す(註1)。郭の詳細な構造の解明には至っていないが、中世富山城は富山城址公園の位置にあったことが確定し、T字形に接続すると考えられる堀跡が確認されたことから少なくとも標高の高い主郭とやや低い副郭からなることが判明した。副郭では15-3Tで鍛冶炉跡が確認され、鍛冶窯連遺物も出土したことから、城内で武器や工具等を製作または補修していたことが判明した。15-3Tの鍛冶炉の操業時期について、「かわらけの年代から16世紀前半と考えられる。」と報告された(富山市教委2004, p. 12)。また、17-5Tでも鍛冶および铸造窯連遺物が「すべて17-5T 戦国期土間構造遺物包含層から出土した。」(富山市教委2006, p. 24)ことで、「調査区周辺での戦国期の铸造鍛冶工程の存在を裏付けるものとなった。」(p. 35)と報告された。15-3T出土かわらけには「16世紀第2～第3四半期に位置づけられる」B種(富山市教委2004, p. 13)が存在することから、鍛冶炉の操業時期は16世紀第2四半世紀頃と判断されたと考えてよい。(小黒)

### 2 中世富山城(富山城址公園区域)の堀跡の報告内容とその再検討

富山城跡試掘確認調査では、15-1T・15-2T・16-2Tで中世富山城の堀跡が確認された。特に15-1T(富山市教委2004)では堀の斜面の一部を横断面で捉えることができており、出土遺物にも特徴が認められたことから、貴重な成果をもたらした。このため、展示構成の検討にあたっては、特に15-1Tの調査所見を重点的に再検討した。15-1Tの平面図と堀横断面図を図2に示す。調査区全域が堀の内部に相当し、土器片などが多く出土した。

**整地層** 図2右のとおり、堀の堆積土の上には薄い整地層(黄色シルト質粘土)があり、14-2Tでも同質の土が確認された。広範囲に分布する当該層の形成時期は、直下の層から16世紀後半を下限とする中世遺物が含まれ始まるごと、および直下の層に木炭や焼土を多く含み、木炭の放射性炭素年代測定結果(較正年代)などから総合的に考えると、確定できないものの、「①秀吉による城の破却後の慶長2(1597)年の前田利長入城前後の時期、②慶長14(1609)年の大火直後の時期」の可能性が想定された(富山市教委2004, p. 5)。当該整地層の形成時期に関連して、萩原による再検討の結果、前田利長の慶長2年入城説を否定し、慶長10年入城説を採用して展示了。

(小黒)

## 旧神通川

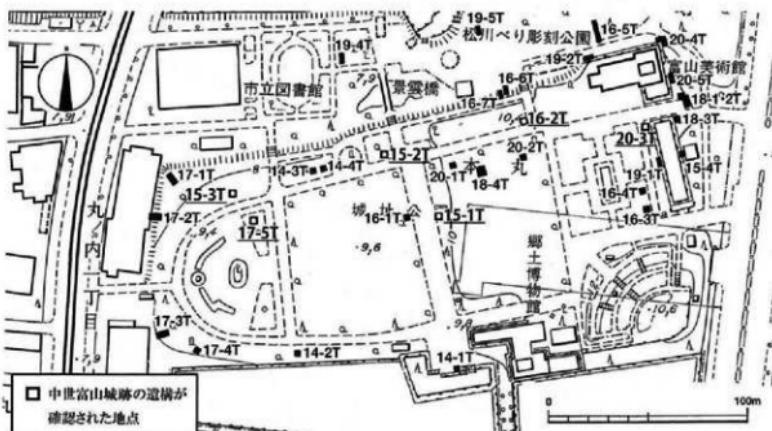


図1 中世富山城跡に伴う遺構の分布模式図と試掘確認調査地点  
(富山市教育委員会埋蔵文化財センター2005・富山市教育委員会2009から作成)

ここで、慶長10年入城説の根拠を簡単に述べる。利長は、慶長3年7月に守山城（現高岡市）の屋敷跡の一部を開拓していることから〔「上坂家文書」『富山史壇』第33号〕、それまで本拠としていた守山城を使わなくなったとみられる。したがって、通説のごとく慶長2年に元国元の拠点を守山城から富山城に移した可能性は高い。

しかし、同時代史料を見る限り、利長は豊臣政権の主要構成員として、ほぼ一貫して上方（京・大坂・伏見）にいた。例えば、慶長3年4月には、朝廷より従三位・権中納言に任命されており〔公卿補任〕、

8月には秀吉の死去に際し、秀頼の傅役となることが定められ〔『大日本古文書 浅野家文書』107号〕、徳川秀忠・宇喜多秀家と連名で誓紙を提出している『徳川家康文書の研究』所収「慶長三年誓紙前書」・「竹中氏雜留書」。翌4年の秋に国元へ下向するが〔『史籍雜纂 第二 当代記』〕、すでに父の利家も亡くなった後であり、家督を継いた利長の戻るべき本拠は金沢城となっていた。したがって、この間に利長が富山城へ入城した可能性は極めて低い。

以上から、富山城の整備は慶長10年の利長隠居にかかる富山入城後と結論づけられる。なお、史料からみた利長の富山城整備については、かつて述べた私見（萩原2015）も参照いただきたい。（萩原）

**堀堆積土** 発掘調査では15-1Tの壁面を「焼土・灰層」・「整地土」・「木炭・焼土を含む土」・「整地土・堆積土」の4つに区分して詳細に観察しており、堆積状態や混入物の有無で大きな差があったとわかる（図2右）。南壁西側では、整地層直下から1mほど深さまでは細かく投げ込まれたような状態で土が堆積しており、木炭・焼土を含む単位もある。当該部分とそれより下の部分では堆積状態が明瞭に異なることが調査で認識された結果、境界線が太線で表現されている。このことから、①ある段階で堀浚えが行われたこと、②堀浚え後の堆積はそれ以前の自然堆積と異なり人為堆積によるものとの2点が判明する。人為堆積層とみなす根拠は、写真1の画像データをパソコン画面で拡大した際に顕著な量の偽土（柔らかい粘土やシルトなどの未固結碎屑物からなり、「ブロック土」や「粘土塊」などとも呼称されるもの）を認定できたことである。ここでは、境界線の上下で堆積要因が異なることに加え、境界線直下の厚さ40cmほどの自然堆積層が木炭・焼土を含む土で、調査範囲内では当該層の下に同様の土が堆積していないことを確認しておく。この点が再検討の鍵となる。

**堀跡からの出土遺物** 図2左のとおり、堀跡からは遺物が出土した。その出土状態の一例を写真2に示す。調査では出土遺物の標高が全点測量されており、報告書では堀横断面図に投影した垂直分布図も提示され（図3）、重要な検討材料となっている。報告書によると、堀は整地層から深さ2m以上に及ぶと推定



写真1 中世富山城の堀跡の堆積層 (15-1T 南壁下部)  
(線内は「自落」に伴う焼失廃材等が投棄された層)

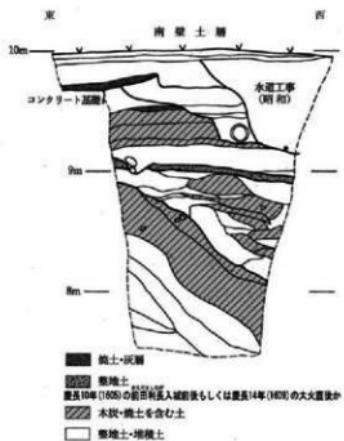
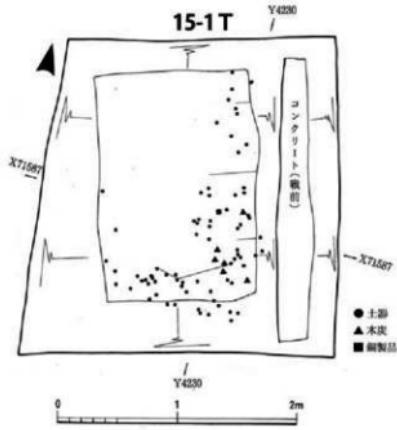


図2 中世富山城の堀跡の土の堆積状態 (富山市教育委員会 2004 から作成)

され、主に砂礫層からなり、堆積層はおよそ3期に区分できる。堀が最初に掘られた最下層にあたる1期堀からの遺物はわずかで、木炭も少量だった。2期堀は1期堀の埋没後に堀の東側から多数の遺物が投棄された時期に相当する。3期堀は2期堀の埋没後に意図的に埋めた層で、遺物はわずかだった（富山市教委2004, p. 8）。

なお、確認された堀上部の堆積土について、当該層を天正13年の秀吉の命による富山城の破却行為を示すと解釈する見方（加藤2004、加藤・古川2004）がある。ただ、加藤・古川両氏は、2期堀と3期堀を破却に伴う一連の行為とみなしておらず、整地層は利長による本格的な郭整備を示すと解釈した（加藤・古川2004, p. 57）。筆者は、前述した整地層の年代観と後述する2期堀出土土器群の年代観から、攘入土層、すなわち人為堆積層とみなす3期堀の堆積層は成政の開城後に下された秀吉の富山城破却命令によって埋め立てられたと判断する。人為堆積層とみなす根拠は、報告書では土層注記が示されていないものの、先述のとおり写真1の3期堀の堆積層に顕著な量の偽縄を認定できることである。他方、1・2期堀の堆積層に偽縄は認めがない。パソコン画面での拡大画像による判断だが、2期堀の堆積層は、人為堆積層よりも堀斜面での集積層、すなわち自然堆積層とみなす方がよいと捉え、2期堀の堆積層を破却命令に伴う埋土とは認定しない。この点が、加藤・古川両氏とは異なる。

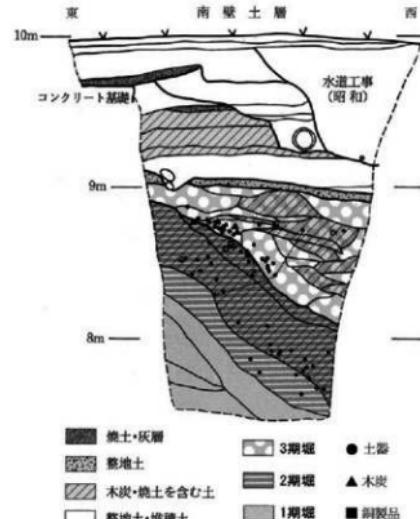
以下、長文となるが、再検討にあたって重要な遺物出土状態の報告を引用する。2期堀に投棄された遺物は「多数のかわらけ、焼けた木材、炭化したイネ・ムギ・アワ・ヒエ・マメなどの穀類（五穀）やソバ、銅製品、鉄製品、焼けた粘土塊、拳大の礫がある。これらの出土品には二次的な被熱により変色したり、表面に小剣縄が認められるものがある。また礫は安山岩が主体で、多くは熱により破碎、あるいは赤化している。これらの遺物は大規模な火災があったことを示している。2期堀の状況は、その火災の残骸を東側から堀に向かって投げ込んで片付けたことを示したものと推定される。2期堀から出土したかわらけは約120点がある。接合関係は1個体分のみ確認された。3片に分かれていますが、2期堀と3期堀に分散している。これはおそらく3期堀の盛土が2期堀上部のかわらけを巻き込んで行なわれたためであろう。このことから3期堀の存続期間は短かったことが予想される。2期堀から出土したかわらけの大部分は16世紀前半に属する。（p. 8）」、「遺物出土層位の分布図では3期堀からの出土とみえるが、これは投影方向のズレによるもので、そのほとんどが2期堀に属するものであることを付記しておく。

（p. 9）。これら詳細な報告に至った綿密な現地調査と資料化が、再検討の基礎になったことを明記しておく。

**大火の評価** 15-3Tで確認された鋳治炉下10cmには燒土・木炭や戦国期遺物を含む層を介して土間面があった。土間面直上から半割れ、帶火した茶臼



写真2 出土土器（丸内）



遺物出土層位は3期堀に属するように見えるものも多いが、これは投影方向のズレによる。ほとんどが2期堀に属し、3期堀に属するものはわずかである。

図3 遺物出土状態（富山市教育委員会2004から作成）

が、周辺に木炭や焼破砕した礫小片、焼土粒を伴って出土したことから、土間構造をもつ建物は大火を受けたと判断された。当該土間および鍛冶炉（小鍛冶工房）の構築時期はかわらけの年代から 16 世紀前半と報告された（p.12）。大火の時期について、「いつ生じたかは不明だが、一つの候補としては元亀 3（1572）年の一向一揆勢に対する上杉方攻勢の際に焼討ちが行われた可能性があろう。」との解釈が示された（p.23）。この解釈は、埋蔵文化財センターホームページの「富山城研究コーナー」の「富山城・城下町の考古学的調査」－「本丸の発掘－中世富山城の縄張りと堀の検出（2003 年度調査）」にも反映され、ホームページでは大規模な火災の残骸を堀に捨てた時期を「土器の形からみて西暦 1550 から 1575 年頃」と推定し、「元亀 3（1572）年の上杉による一向一揆勢の攻略、あるいはその翌年の城兵反乱などの記録に該当するのかもしれません。」と別の解釈も示され、今日に至っている。古川氏は 15-1T の堀について、2014 年の著書の総論では「十六世紀第 2 四半期頃から江戸初期にかけて埋没した」（古川 2014, p.7）としており、土器の年代観は報告書に準じたものとなった。年代観の変化は不斷の再検討によるのかもしれないが、その理由は明確でない。

なお、元亀 3 年の翌年に城兵反乱の記録ではなく、天正 11（1583）年の「富山城の変」のことと考えられたため、この点は再検討の対象外とした。  
(小黒)

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/toyamajyo/tyousa/sengoku/hon.htm>

〔平成 17 年 8 月 1 日公開、平成 31 年 2 月 28 日最終閲覧〕

**2 期堀出土土器の再検討** 2 期堀の再検討の基本は 15-1T 出出土器の年代観の検証である。報告では、出土遺物の平面分布図（図 2 左の元図）と垂直分布図（図 3 の元図）、および土器の実測図も提示されたが、個々の土器が両分布図のどれに該当するのかは示されなかつた。「大半は 16 世紀前半に属する」とされたが、そうではないものがあると認識されたことも明らかである。14-2T の整地層直下の下限は 16 世紀後半（富山市教委 2004, p.5）とされたので、15-1T 出出土器の下限も当該期と判断されたのかもしれないが、明記されておらず定かではない。このような課題はあるが、出土土器群のほとんどが 2 期堀に属し、大火の残骸に伴う一括資料と認識されたことを筆者は最重要視する。しかし、出土土器群にはおおむね 50cm 前後となりの標高差があることから上下 2 群に大別される可能性もあること、出土地点が測量された木炭（図 3▲、以下、焼けた粘土塊や礫などを含めて焼けた木材等を焼失廃材とする）は出土遺物群のうち最上位に相当することにも着目したい。焼失廃材とほぼ同様の標高で出土した土器群とそれらの下位で出土した土器群に、時期差と捉えることが妥当と考えられる有意な型式差が認められる可能性はあるものの、それは詳細な出土状態を厳密に検証する必要があり、本稿では不問としておく（注 2）。

そこで、近年の土器編年研究を基に検証する。富山城跡・富山城下町遺跡主要部の出土資料を集成し、編年研究を行った堀内大介氏の成果（堀内 2017）を参照する（注 3）。堀内氏は、年代観を基本的に報告書の記載に従う（p.28）としつつ、自らの型式分類を踏まえて 15-1T 出出土器（報告書第 9 図 5・6・12・21・26・41・46～49・51）を 1 期（16 世紀前半～中頃）の基準資料とした（第 3 図）。なお、「前半」・「中頃」の想定暦年代は示されていない。報告書と比べて堀内氏が当該土器の時期幅を広げた根拠も明記されていないが、この認識は結果的に報告書とホームページの認識をあわせたものに近い。堀内氏が I 1・2 類、II 1～3 類に区分した型式群も、実際には多様な形態的特徴をもつ資料が含まれるので、現時点では 16 世紀前半に絞り込むことができず、幅を持たせざるをえないと判断したのだろう。このような資料的限界を踏まえ、2 期堀出土土器を 16 世紀前半～中頃の時期幅で捉えることを再検討の出発点とする。（小黒）

**元亀 3 年の謙信第 7 次越中出馬の実相** 中世富山城が攻防の舞台となったのは、元亀 3 年の上杉謙信による越中出馬である。ここでは少し紙幅を割いて、この時の中世富山城の被災の有無を検討しておく。なお、軍事経過の詳細は、すでに述べた（萩原 2017, pp.253-256）。本稿とあわせ、ご参照いただきたい。

元亀 3 年 5 月、河北郡と石川郡の者を主力とする加賀一向一揆勢が、河上・五位庄（現高岡市）へ進攻してきた。そして、翌 6 月に神通川の渡し場で、越中に在陣する上杉軍の一隊を撃破し、日宮（現射水市）も奪い取った。このような劣勢の状況をうけて、謙信は秋に越中へ出馬し、8 月に新庄（現富山市）へ入った。対する一向一揆勢は、多くの兵を富山に集める動きを見せた。こうして、富山と新庄という、直線距離わずか 4 km の所で両軍が対峙した。翌 9 月には、飛驒の江馬氏が謙信の援軍として駆け付け、それを

見た一向一揆方が押し寄せてきたものの、謙信軍が撃退し、中世富山城へ追い込んでいった。

謙信は中世富山城への総攻撃ではなく、周囲の敵方拠点をつぶす作戦に出た。越中西部では、別に蜂起した加賀一向一揆勢を安養寺御坊（現小矢部市）へ追い払い、越中中部では、滝山城（後の富崎城、現富山市）を攻め取ったうえで城を破却している。謙信優勢で事態が進むなか、年が明けた元亀4年正月、越中東部の反謙信勢力であった松倉城（現魚津市）の椎名康胤が講和を求めてきた。（ほぼ同じタイミングで一向一揆勢も停戦和睦を申し入れてからしく、和議を受け入れる条件として、謙信は一向一揆勢の中世富山城からの退去を提示したとみられる）。謙信は、富山の地に中世富山城とは別に出城を築き、本国越後への撤兵を始めた。ところが、帰途についたなか、事件は起こる。なんと退去したはずの一一向一揆勢が突如として引き返してきたのだ。すぐさま謙信も引き返し、彼らを中世富山城へと追い込む。このため、中世富山城は再び一向一揆勢が立てこもる拠点に戻ってしまった。謙信は、稻荷・岩瀬・本郷・二宮・押上（いずれも現富山市）に砦を築き、中世富山城の孤立化を図ったうえで、あらためて帰国の途へいた。こうして、謙信第7次越中出馬は幕を閉じたのであった。

とりわけ本稿の問題関心に基づき注意したいのは、この間、中世富山城そのものが主戦場となったことはなく、まして城に火が放たれた事実を確認できない点である。確かに一向一揆勢はいったん中世富山城を退去したので自焼没落する可能性も皆無ではない。ただし、和議に伴う明け渡しによる退城であるため、火を放つ必要はない。これら史料から浮かび上がる軍事経過と照合するなら、一向一揆勢が占據する中世富山城が焼討ちされた可能性を想定する報告書の見解は、成立する蓋然性が低いと判断できる。（萩原）

**新解釈の提示—2期堀出土焼失廃材の成因と謙信の第1次越中出馬—** 既述のとおり将来的な細分の可能性を残しつつも、現状では2期堀出土土器群を16世紀前半～中頃の時期幅で捉える以上、2期堀の堆積土を天正13年の中世富山城破却命令に伴う埋土とみなすことは困難である。四半世紀以上前の古い土器群を天正13年に投棄したと解釈することも不可能ではないが、消耗品の土師器の耐用期間はごくわずかであることを踏まえるとこの解釈が成り立つ蓋然性は低く、何よりも自然堆積と認定すべき2期堀の堆積層を人為的な破却行為に伴うと解釈することはできない。これに対し、堆積土の様相が明らかに異なる3期堀は既述のとおり天正13年の破却命令に伴う埋土と捉えることが妥当である。さらに、2期堀出土焼失廃材が元亀3年の謙信による第7次越中出馬ではなく生じがたいことを重視すると、自然堆積した2期堀出土焼失廃材は必然的に元亀3年以前の何らかの出来事によって生じたことになる。（小黒）

**永禄3年の謙信第1次越中出馬の実相** ここで注目されるのが、長尾景虎（後の上杉謙信、以下、謙信と表記する）による永禄3年（1560）の第1次越中出馬である。すでに詳細を述べた（萩原2017）ので、本稿に関わる範囲内で言及する。当時の越中は、永禄2年の夏以降、越中東部に力をもつ椎名氏と、西部の多くを治める神保氏が、激しく対立していた。謙信は両氏の調停に乗り出しが、ほどなく神保氏が和議を破り、椎名氏に圧力を加えた。神保氏は甲斐・信濃を牛耳る武田信玄とも通じており、信濃攻めを画策していた謙信は、まず神保氏を押さえ込もうと越中へ出陣した。

その経緯を語る（永禄3年）4月28日佐竹義昭宛長尾景虎書状『上越市史 別編1 上杉氏文書集一』（以下、『上越』と略記する）1368号「新編会津風土記卷之五」の「為向撃、去月廿六、不図越中国出馬候処、同晦日夜中、神保在城号富山地自落、彼国西郡号増山地利へ相移候条」という記述に注目したい。なお、本史料は「富山城」の初出史料である。現代語訳すると「敵を迎撃つために、先月26日に、やむなく越中へ兵を率いて出陣したところ、晦日の夜中に、神保はそれまで在城していた富山の地を自ら捨て、越中の西の郡にある増山と言う場所へ落ち延びていった」となる。つまり、中世富山城にいた神保氏は、謙信襲来の報をうけて、一戦も交えることなく、西へと逃げ失せたのである。（萩原）

さて、永禄3年は15-17出土土器群の時期幅に含まれる。加えて、焼失廃材という火災の物的証拠が16世紀前半～中頃の土器群と共に伴する一括資料と捉えられたことを重視すると、文献史学の「自焼没落」の研究成果が注目される。近年の代表例として、中澤克昭氏の研究（中澤2001）を参照しつつ、中世富山城の堀跡の発掘調査成果を再検討する。史料では南北朝頃から「自焼」が目立ちはじめ、しばしば「没落」を伴う。本来、没落とは「城などが敵に奪われる」あるいは「（維持できなくなった）それまでの拠点を離れる」といった意味だった。中澤氏は「没落」に伴うことの多い「自焼」は、城や館、家を自ら焼くこ

とで、時として、降参していない、屈服していない、といった意思を強く表示する行為でもあったことを明らかにした（中澤 2001, pp. 278–279）。このような研究成果を念頭に置くと、多くの史料で認められる「自焼」ではないものの、長尾景虎書状では「自焼没落」を意味するものとして「自落」と記されたと解釈することが合理的である。すなわち、謙信が越中守護代の神保長職の居城である富山城を攻めた際、長職が増山城（現砺波市）に退避する前に自ら火を放つて敵方に居城を使わせないようにした「自落」を示す物的証拠が 15-IT から出土した焼失廃材なのである。焼失廃材や土器等の不用品を実際に堀へと投棄したのは、長職の「自落」後、一向一揆勢によって占拠され、元亀 3 年 8 月に上杉勢に明け渡されるまでの約 12 年間と幅をもたせざるをえず、考古学的にも文献史学的にも限定することは難しい。ただ、15-IT 東壁では「木炭・焼土を含む土」が 2 期堀・3 期堀に複数層あり、實際には焼土を含む土を堀に複数回投棄したのだろう。2 期堀では自然堆積の過程で投棄された。「自落」の中世富山城を長尾勢が一定期間確保した際に一部を片付けたのかもしれない、また一向一揆勢が占拠したち拠点化する際に本格的に片付けたのかもしれない。ただし、謙信側は、富山地域における拠点的城郭として、中世富山城ではなく新庄城を用いており、長尾勢が中世富山城の拠点化整備を進めた可能性は低いと思われる。いずれにせよ、当時の状況を念頭に置くと、焼失廃材を片付ける機会は複数回想定できる。それが、焼失廃材を含む 2 期堀の堆積層が複数層として把握された（写真 1）ことと関係している可能性もある。なお、図 3 で示された木炭は当該層に含まれる木炭よりも大形だったので出土地点が測量されたと判断される。以上の再検討過程を経て、2 期堀の考古学的所見に関して上記の新解釈を導き出し、展示での話題の一つとした。（小黒）

**派生する諸課題** 中世富山城の「自落」では、発掘資料によって史料からは明らかにできない火災の物的証拠が確認され、「自焼没落」と解釈すべき「自落」だったことが判明した。今後に検討すべきこととして、史料に見える「自落」が自ら火を放たない場合はあったのかという課題がある。なお、早くに着目した服部英雄氏は「自焼」「自落」とも「自ら火を放つて落城させること」（服部 1979, p. 359）とした。「自焼没落」による放火と破却等に伴う敵方の放火を考古学的に区別することは容易でないが、中世富山城跡のように焼失廃材が史料の「自落」年代を含む時期幅の土器に伴うなど、考古学的所見と史料の内容が調和的な場合にのみ退避時に自ら火を放った「自焼没落」としての「自落」と判断できるのではないか。その意味で、中世富山城は稀有な事例と言えるだろう。

なお、佐伯哲也氏も「自落」に着目している。史料上、富山県内では富山城・富崎城・増山城・守山城で「自落」が確認され（佐伯 2017, p. 97 注 2）、佐伯氏は「自落」を「敵前逃亡」（p. 113）であり、「被害を必要最小限に食い止める一般的な戦法」（p. 108）とした。この他、金山城（現魚津市）でも「自落」と思われる例を見出しうる。そこで、これらの城で「自焼」が行われたのかを順に検討していく。

**中世富山城** 先述のとおり、永禄 3 年に神保氏が自ら火を放ち、没落したと想定できる。

**滝山城（富崎城）** 天正 9 年 5 月 6 日付の上杉家臣の手紙〔『上越』2121 号「上杉家文書」〕に「滝山之儀も自放火仕候而、神介・牛之助罷除」とあり、後の富崎城のことを指す滝山城について、城を守る神介（小島甚助）と牛之助（寺島牛之助）は自ら火を放つて撤退した。これも自焼を伴う没落のケースである。

**増山城** 中世富山城の自落を示す前掲史料引用部の続きに「其夜半神保前行、武具・乗馬已下棄之、不知行方歟候」と記される。増山へ落ち延びた神保氏だったが、謙信軍が迫って来たため、夜の間にまぎれて、武器や馬などを捨て置き、行方をくらましたという。まさに逃げの一歩を決め込んだ命からがらの退却劇であり、火を放つ余裕さえなかつたと考えてよい。よって、自焼を伴わない事例である。

また、天正 9 年 5 月には、「増山なとも焼払、木舟計相抱之由」〔『上越』2124 号「別本歴代古案卷十二」〕とあり、増山城が焼き払われている。当時の増山城は、織田信長方と上杉景勝方の間で激しい攻防が交わされており、どちらの軍が火を放ったのか、研究者の間でも見解がわかれている。例えば、報告書の発掘調査所見部分（利波匡裕氏・野原大輔氏執筆）では織田方が焼き払ったと捉え（砺波市教育委員会 2008, p. 95）、文献調査部分（高岡 徹氏執筆）では上杉方が焼き払ったと説く（p. 231）。佐伯氏は上杉軍自ら増山城を焼き払い、馬洗池の堀で確認された焼土層をその物証と解釈した（佐伯 2017, p. 114・119）。本稿でも、織田方ではなく上杉方が焼き払ったと理解する。引用史料は、上杉氏重臣の河田長親からもたらされた越中国内の情勢について、上杉氏家臣の黒金景信が本拠の春日山城へ注進したものである。そのため「之由」

と伝え聞いた形になっており、増山を自ら焼き払って木舟城だけを押さえるのみとなつたと報じているのである。したがつて、この時は自焼を伴い没落したものと判断してよい。

**守山城** 永禄年間（1558～70）とみられる史料に「今度者守山自落不成積仕合残候」〔『富山県史 史料編II 中世』1612号「田畠文書」〕とあるのみで、自焼を伴つたかは不明である。

**金山城** 永禄12年に行われた謙信第5次越中出馬で、上杉軍が椎名氏の本拠松倉城を攻めている。その経過を語る史料に「金山根小屋悉自放火、無残所一変、併松倉城計ニ而相抱候」〔『上越』799号「謙信公御書三三」〕と見える。これによると、劣勢に陥つた椎名氏は松倉城の支城の一つである金山城に自ら火を放ち、残すは松倉城を抱えるのみになつたと伝える。自焼を伴う没落のケースと理解できよう。

以上のように見てくると、史料に「自放火」と記される場合、自焼没落を示す場合も多いのではないかと思われる。一方で、単に「自落」と記される場合、自焼を伴うかどうか判断するのは困難なケースが多い。そういう際に、時として考古学的知見が有用となる。繰り返しになるが、中世富山城はその最たる例といつてよい。

（小黒・萩原）

### 3 主郭内井戸 SE1 の使用時期の再検討

廃絶後の掘り方内上部のごく一部が調査された主郭内の井戸 SE1（20-3T）は、「覆土から出土する遺物の時期は、16世紀後半～17世紀初めと考えられる。従つて井戸の掘削・使用年代は16世紀中頃の中世富山城成立期に遡る可能性が高い」と報告された（富山市教委2009, p. 31）。この解釈は、埋蔵文化財センターホームページの「富山城研究コーナー」の「富山城・城下町の考古学的調査」－「本丸の発掘－戦国時代の井戸（2008年度調査）」にも反映され、ホームページでは「井戸が使われていたのは16世紀中頃の戦国期と考えられます。この井戸は天正13（1585）年の富山城の破却に伴い廃絶したか、あるいは慶長10（1605）年の前田利長による築城で近世城郭として整備されたときに廃絶した可能性が考えられます。」と別の解釈も示され、今日に至っている。

[http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/toyama\\_jyo/tyousa/sengoku/s-ido.htm](http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/toyama_jyo/tyousa/sengoku/s-ido.htm)

〔平成21年6月15日公開、平成31年2月28日最終閲覧〕

なお、堀内氏の編年研究（堀内2017）では、土器の年代観に報告書との差がない。堀内氏はSE1出土土器類（報告書第14図26～29・31・32・37・42・46・47）を自身の2期（16世紀後半～17世紀初頭）の基準資料（I I・2類、II I・II 4～6類）の一部とした（第3図）（注4）。

今回の再検討では、掘り方内上部での土器・陶磁器の出土状態を考慮しつつ、瀬戸美濃（天目茶碗：報告書第15図53）を全体形状から瀬戸・美濃大窯編年（藤澤2002）の大窯3期後半（曆年代の目安は1575～1590年頃）に比定することで、主体を占める中世土器等も当該期に限定して捉え直した。また、16世紀中頃の遺物が出土していないSE1の使用時期をあえて当該期、すなわち神保長職期に求める必要性もないと判断した。主体を占める資料群を1575～1590年頃に比定した以上、織田方の武将（神保長住・佐々成政）が城主となった天正6（1578）～13年頃にSE1が使用され、廃絶したと解釈することが最も自然である。16世紀末葉以降の土地利用（削平など）の際に発見された古い伊勢期の土器・陶磁器が井戸廃絶後に投棄された可能性を想定することもできるが、検証不能である。以上の判断に基づき、展示では16世紀後半、すなわち織田方武将期の井戸として紹介した。掘り方内最上部の土層記や調査写真を見る限り、偽縫が顕著に認められるなど人為堆積層を示す状況にはない。掘り方内上部の堆積層は井戸構築時の掘り方内埋土が井戸側の崩壊に伴つて滑り落ちた人為堆積層で元々偽縫を含むため、秀吉の中世富山城破却命令で埋め立てられた土との識別は困難である。以上の所見から、当該部は自然堆積で埋没したと判断すべきであり、秀吉の中世富山城破却命令で埋め立てられたのではなく、廃絶後は長期にわたつて窪地の状態のまま放置されたことが明らかである。当該部出土遺物の年代観も踏まえると、慶長10年の整備で最終的に廃絶した可能性を想定することも難しい。SE1が完全に埋没した後、その上には「造成土か」と判断される砂疊混じりの灰茶褐色土（富山市教委2009, 第10図12層）が周辺を含めて30～50cmの厚さで覆つておらず、この層が慶長10年の利長入城までに行われた近世城郭（近世富山城）の整備に伴う造成盛土の可能性も想定できなくはないが、限定は難しい（注5）。

（小黒）

#### 4 まとめ

中世富山城跡の発掘調査所見の再検討により、神保長職以降の歴代城主にかかる遺構群を区分することができた。すなわち、1期堀の堆積層は長職の築城後の堆積土であり、2期堀の堆積層は長職が居城とした時期の堆積土、および永禄3年の謙信の第1次越中出馬の際に長職が「自落」して増山城へと落ち延びた後、一向一揆勢が占拠した中世富山城を上杉勢に明け渡す頃（元亀4年正月）までの堆積土と限定できた。長職期には副郭で鍛冶および铸造作業が行われ、長住期または成政期の主郭では井戸が設けられ、廃絶後には放置され、埋没した。なお、3期堀の掘削にあたって堀浚えが行われており、それは織田方武将として長住が入城した天正6年末頃～7年4月（萩原2010a, p.5）以降、織田方が新たに500～600の兵を投入した天正10年2月まで、すなわち長住によって整備された蓋然性が高い。これは、長住が天正7年4月までに「安城外町」（城下町）の開発に着手したと考えられる（萩原2010a, p.6）。ことと相まって、中世富山城の一つの画期となる出来事だった（注6）。その後も成政の居城として利用され、秀吉の破却命令によって3期堀が埋め立てられた。慶長10年の利長入城に先立ち、主郭・副郭とも盛土され、近世城郭（近世富山城）として整備された。

本稿では、富山城址公園区域の考古学的所見を基礎として、文献史学と学際的に再検討することで、史料に記された神保長職による富山城の「自落」痕跡を見いだすことができた。それを出発点として、確認された「自落」痕跡が考古学的・文献史学的検討課題の解決にも迫りうる知見であることを指摘した。このように、現時点での考古学的には時期幅をもたせて捉えざるを得ない遺構であっても、確実視できる史料や正しい方法に基づく文献史学の研究成果と照合することで、時期幅を狭めたり、考古学的検討のみからではうかがい知ることのできない歴史に迫ったりすることが可能である。地城史の復元にとって、学際的研究は欠かすことのできない手法である。諸賢の批判的検証によって、本稿で示した仮説が吟味され、越中の戦国史研究に少しでも役立つことになれば幸いである。

（小黒・萩原）

#### 注

- (1) 再検討にあたり、富山城跡試掘確認調査に従事した中本八徳・野垣好史、富山城跡発掘調査出土品整理に従事した鹿島昌也・堀内大介・野垣好史の諸氏からご教示いただいた。
- (2) 後述する新解釈の是非とも密接にかかわるが、新解釈が容認される場合、この検討課題は16世紀代の土師器編年的确立に向けて15-17出土土器群が基準資料として大きく貢献できる可能性をもつことを意味する。
- (3) 堀内氏は2018年に2017年の論を補訂した（堀内2018a）が、堀内2017とは型式分類や時期区分を微調整し、当該土器を16C中頃に比定した（第198図）。しかし、その根拠は詳述されておらず、16世紀前半を外して中頃に限定すべき根拠は明示されていないことから、全体的に詳述された堀内2017のみを引用する。
- (4) 堀内2018aでは、共伴した潮戸美濃を大窓4期に比定する（p.367）ことで、後述する当該土器を16C末～17C初頭に比定した（第198図）。なお、16世紀後半を外した根拠は明示されていない。堀内2018aの年代観を探る場合でも、後述するように天正6（1578）～13年頃にSEIが使用されたとの解釈で矛盾はない。
- (5) 20-3Tの調査を担当した野垣好史によると、「造成土か」とした層について、造成土の場合でも14-2T・15-1Tで確認された慶長10年前後もしくは慶長14年前後の整地層に対応するものかどうかは不明という。これら以外にも、寛文元年（1661）前後や災害復旧など多様な可能性を想定でき、当該層上部の堆積層にも年代推定の鍵となる所見は得られていないため、絞り込むことはできないとのことである。
- (6) 近世（富山藩政期）富山城の三ノ丸の区域でも、中世富山城の堀跡の可能性が想定されている遺構が確認されている（富山市教育委員会ほか2009、富山市教育委員会2017・2018a）。郭の構造復元には今しばらく考古学的所見の蓄積を待つ必要があるため本稿では検討対象外としたものの、富山城址公園区域で確認された堀跡とは走行方向を異にする（富山市教育委員会2018a, 第32図）。これらの遺構群は、資料が蓄積した将来において、長住による「安城外町」の開発や中世富山城の再整備と関連するものかどうかを検証する必要がある。

## 引用・参考文献

- 加藤達行 2004 「富山城の破却について」『富山市の遺跡物語』第5号 富山市教育委員会埋蔵文化財センター
- 加藤達行・古川知明 2004 「中世富山城の考古学的調査に基づく考察」『富山史壇』第142・143合併号 越中史壇会
- 木倉豊信 1966 「史料紹介(11)上坂家文書(続)」『富山史壇』第33号 越中史壇会
- 久保尚文 1983 『越中中世史の研究 室町・戦国時代』 桂書房
- 黒板勝美・国史大系編修会 1964-1966 『新訂増補 国史大系 公卿補任』第一篇～第五篇、索引 吉川弘文館
- 国書刊行会 1911 『史籍雜纂 第二』
- 佐伯哲也 2017 『戦国の北陸動乱と城郭』 戎光祥出版
- 上越市 2003 『上越市史 別編1 上杉氏文書集一』
- 高岡 徹 2016 『戦国期越中の攻防—「境目の国」の国人と上杉・織田一』 岩田書院
- 東京大学史料編纂所 1968 『大日本古文書 家わけ第二(浅野家文書)』 東京大学出版会
- 砺波市教育委員会 2008 『増山城跡総合調査報告書[本文編]』
- 富山県 1975 『富山県史 史料編II 中世』
- 富山県 1980 『富山県史 史料編III 近世上』
- 富山市教育委員会 2004・2006・2007・2008・2009 『富山城跡試掘確認調査報告書』
- 富山市教育委員会 2017 『富山城跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2018a 『富山城跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告91
- 富山市教育委員会 2018b 『富山城跡本丸石垣解体修理発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会 2018c 『富山城跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告93
- 富山市教育委員会・富山市路面電車推進室 2009 『富山城跡発掘調査報告書』
- 富山市教育委員会埋蔵文化財センター 2005 「本丸・西の丸で戦国期神保氏の城を確認 富山城跡」『富山市の遺跡物語』第6号
- 富山市郷土博物館 2010 『秀吉 越中出陣』
- 富山市郷土博物館 2013 『戦国越中の霸者 佐々成政』
- 富山市郷土博物館 2017 『謙信 越中出馬』
- 中澤克昭 2001 「城を焼く」『城破りの考古学』 吉川弘文館
- 中村孝也 2017 『新訂 徳川家康文書の研究 新装版』 吉川弘文館
- 萩原大輔 2010a 「天正年間中期の富山城」『富山史壇』第161号
- 萩原大輔 2010b 「関白秀吉越中出陣に関する基礎的考察」『富山史壇』第162号
- 萩原大輔 2012 「秀吉越中出陣をめぐる政治過程」『富山史壇』第167号
- 萩原大輔 2015 「前田利長隠居政治の構造と展開」『富山史壇』第178号
- 萩原大輔 2016 『武者の覚え 戦国越中の霸者・佐々成政』 北日本新聞社
- 萩原大輔 2017 『上杉謙信の北陸出兵』『上杉謙信』 高志書院
- 服部英雄 1979 「史跡の見方・調べ方」『文化財保護の実務』上 柏書房
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 古川知明 2014 『富山城の縄張と城下町の構造』 桂書房
- 堀内大介 2017 「近世土師器皿・越中瀬戸素焼皿の集成」『富山市考古資料館紀要』第36号
- 堀内大介 2018a 「富山城跡出土の中近世土師器皿について」『富山城跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告93
- 堀内大介 2018b 「平成二十九年度環日本海文化交流史調査研究集会の記録—富山県(富山城跡・富山城下町遺跡主要部)の様相—」『石川県埋蔵文化財情報』第39号 (公財)石川県埋蔵文化財センター

## 研究報告 3 富山城下町遺跡出土の貿易陶磁器について

### —総曲輪フェリオ地区、総曲輪四丁目・旅籠町マンション地区の出土資料(1)—

鹿島昌也・新宅輝久

(埋蔵文化財センター専門学芸員)・(富山考古学会員)

#### はじめに

富山城・城下町遺跡の発掘調査は、平成 16 (2004) 年度のグランドパーキング建設工事に伴う発掘調査を皮切りに、平成 25 年の北陸新幹線開業に合わせて、富山城址公園整備や中心市街地再開発、市内電車環状線化工事等に伴い実施された。主だったもので、約 40 地点の発掘調査や工事立会調査が実施された。平成 30 年度までに大小合わせて約 17,000 m<sup>2</sup>余りで調査が実施され、出土品の箱数は約 2,000 箱にのぼる。

富山市遺跡地図には、「富山城跡」として、旧本丸、西ノ丸、二ノ丸、三ノ丸、東出丸を中心約 343,000 m<sup>2</sup>を、「富山城下町遺跡主要部」として、富山城外堀外側に配置された武家地及び旅籠町、越前町、一番町、西町など旧北陸街道沿いの両側町を中心に約 144,000 m<sup>2</sup>を埋蔵文化財包蔵地として登載されている。

本稿では、富山城下町遺跡主要部に位置し、平成 17 年度に発掘調査を実施した総曲輪フェリオ地区 (2005 地点) と、平成 20 年度に発掘調査を実施した総曲輪四丁目・旅籠町マンション (プレミスト総曲輪) 地区 (2008b 地点) の未整理品の中から抽出した貿易陶磁器を図化し、若干の考察とともに紹介する。

平成 22 年度以前の調査報告では、これら貿易陶磁器が国内産陶磁器 (瀬戸美濃や伊万里) と分別が付かないまま未整理の状態で収蔵されていた。

「陶磁器を見る会」や「東洋陶磁学会」の会員諸氏による協力を得て、資料抽出を実施したところ、両地区で 50 点以上もの中国産陶磁器やヨーロッパ産陶磁器、肥前南川原産高級磁器などを確認することができた。その概要是、筆者らが平成 30 年 11 月 11 日に開催した東洋陶磁学会平成 30 年度第 4 回研究会で口頭紹介している。(鹿島)



第 1 図 富山城・城下町の調査位置図

(平成 30 年 11 月現在)

黒く塗られている部分が調査を行った地区

#### 1 資料紹介を行う対象遺物について

今回資料紹介を行う遺物は、東洋陶磁学会平成 30 年度第 4 回研究会で、口頭発表を行った地点のものを対象とした。しかし今回は紙面の関係からその中で特に貿易陶磁器や国産高級陶磁器の出土が多く見られた総曲輪フェリオ地区 (2005 地点) のものについて行い、総曲輪四丁目・旅籠町マンション (プレミスト総曲輪) 地区の遺物については、次号で行うこととする。また、総曲輪フェリオ地区検出遺構の全体的な概要や個々の詳細については、紙面の都合からここでは割愛し、既刊されている総曲輪通り南地区市街地再開発組合 富山市教育委員会 2006 『富山城跡発掘調査報告書』を参照されたい。

## 2 総曲輪フェリオ地区出土貿易陶磁器について

総曲輪フェリオ地区出土貿易陶磁器は遺物再実見の結果、総数で30点存在することが判明した。この地区の主となる時期は、18世紀後葉から19世紀中葉頃の遺構が多く見られることが分かっており、遺物の時期もその多くは18世紀後葉から19世紀中葉前後、いわゆる幕末、明治期で、清朝磁器と呼ばれるものであった。出土位置は、武家屋敷地内に検出したSD08・SD09・SK10・SK11・石組み水路（背割り下水）で、一部その範囲内の包含層からの遺物も見られた。さらにこれらの遺物とは、明らかに時期の違う貿易陶磁器と国産高級陶磁器が共存し、儀礼用の器のセット関係の一端を垣間見る事が出来る、一括遺物も出土した。特にSK62からは、18世紀後葉以降の遺構を中心とする地区に在りながら17世紀代の遺物のみが出土し、その出土遺物も華南三彩、漳州窯産大皿類などの貿易陶磁器に、肥前高級磁器、京焼、信楽の葉茶壺などが見られた。そこで今回は、これら遺物も含めて資料紹介を行いたいと考えている。

まずは清朝磁器について報告する。第2図-1は青花花唐草文鉢である。体部外面には、元染付けの影響を受けた4方向に大輪の花文（菊か）を描き、それを取り囲む様に唐草文を配する。内面は見込みに草花文が見られ、腰部内面には一条の圈線があり、口縁部には唐草文を配する。同様の文様構図は2でも見られ、これらは同じ器種のものと考えられる。時期は18世紀後葉～19世紀前葉頃である。同種のものでは、完形品の形で近似したものが注1内で報告されている。3は藍彩牡丹文若碗である。破片であり、白磁の小碗に藍彩された牡丹文を配している。中国徳化窯産のもので、時期は19世紀中葉～後葉頃のものと考えられる。4は青花寿字蝙蝠文小碗である。相対する4方向にそれぞれ寿字と蝙蝠文を配する。時期は18世紀後葉～19世紀前葉頃である。同種のものは注2内で完形品が報告されている。5は高台の内面以外の体部外面に瑠璃釉を施している小杯であり、6は十錦手の散り蓮華となる。日本で『十錦手』と呼ばれている様式の散り蓮華には黄・黄緑・緑・青・赤茶・赤・桃・白・黒と多彩で江戸、京都の遺跡では、19世紀前半ないし中頃の遺構からの出土が圧倒的に多いとされている（注3）。本遺物は、全体的に赤褐色に覆われ、柄の部分に黄（金）色の文様がワンポイント的に入る。匙部分は大きく欠損しているため、内面に描かれていた絵柄は不明であるが、残存している部分から緑、青、黒、白色を使った山水画的な物が描かれていたと推定される。出土はこの1本だけであったが、使用時は20本ほどの組合せがあったと考えられる。時期は19世紀前葉～中葉頃と考えられる。7は、五寸皿である。1/3程は欠損していて様相は不明である。表の絵柄は、梅華水裂文で2カ所に『松』と『梅』の文字が書かれている事から、欠損部位には『竹』の文字があった可能性が推定される。体部外面には、草花文が相対する箇所に配される。高台内には『大清道光年製』かと推定される銘が入る。時期は19世紀前葉頃と考えられる。表面の絵柄に近似するものとしては、注4内で類似するものが報告されている。8～13までは徳化窯製の小碗である。8・11・12は白磁釉のみの作りで、高台内には押印の様なものが見られるが判読不明である。9は半分ほどを欠損した形で出土した。残存部分の体部外面には朱書きの茗が見られる。朱文字の入るもののは10の様な藍彩の牡丹文を貼り付けた文様を配していたと考えられ、13ではその2絵柄の構成が見られる。完形品としては、注5内で同様のものが報告されている。徳化窯産の白磁小碗は、ほかに写真や図化掲載はしていない同様のものが6個体ほど出土し、このうち2個体は、藍彩牡丹文のものであった。出土場所はSK09～11であった（第1表 遺物観察表参照）。

14は包含層からの出土で、漳州窯産の大皿の底部片である。粗製で生掛けであり、高台疊付には砂が残る。16世紀末葉～17世紀前葉頃と考えられる。15は武家屋敷と町屋敷を分ける石組み水路（背割り下水）から出土した皿である。口縁部内面には段が付く。粗製で生掛けの作りであり、見込みには『金』の文字が入る。高台疊付には砂が付く。漳州窯産で時期は、16世紀末葉～17世紀前葉頃と考えられる。

### 3 SK62 出土遺物について

SK62は武家屋敷地内でも町屋敷との境界近くに位置し、遺構の深さは0.6mで調査区域外への広がりがあるため、平面形状の全容は不明である。確認できた範囲から推定すると方形であったことが窺える。層序は単相で炭化物を多く含む埋土であった。

出土した遺物の時期は、中国陶磁器など17世紀代を中心とする。第3図-1は華南三彩の盤である。破片での出土であり、全容は不明である。口縁部には七宝を配し、底部内面には水草とされる線刻が見られる。三彩印花魚海老文盤となるだろう。裏面は高台疊付が黄釉でそれ以外は緑釉となる。表裏面ともに火熱を受け、色調が変色している。同種のものは、注6内で完形品の報告がある。時期は伊野編年（伊野1992）から第4段階16世紀後葉～17世紀前葉頃である。2は漳州窯産の大皿である。口縁部は欠損し不明である。16世紀後葉～17世紀前葉頃である。3～5は肥前磁器、南川原産の皿である。絵柄は鹿紅葉文であり、同種の構図は金沢市広坂遺跡や柴田コレクションでも見られ、時期は17世紀後葉頃である。

南川原産の高級磁器は第4図-8の変形皿がSK10からも出土している。このほかにSK62からは第5図-6.7の信楽の腰白の葉茶壺や写真図版だけの掲載であるが、写真図版5の明代の碗や4の古染付と考えられる三足盤、6の火熱を受けている古九谷の壺片などもある。（新宅）

#### おわりに

最後に今後の課題について簡単に述べる。まずは貿易陶磁器についてであるが、フェリオ地区で出土した幕末明治期の清朝磁器が、このように大量に出土する要因について考える必要がある。搬入経路はもとより、当時の民衆でこの手の器を扱えた階層は、社会的地位や経済力などから見てどの様な人達だったのか、またその器の価値はどうだったのか、さらに何に使用したのかなど、他地域の城下町からの状況を詳細に調べ、検討する必要があるだろう。

SK62一括資料について、この持ち主が誰なのか。遺構の時期も17世紀の遺物が主体で火熱を受けており、延宝3（1675）年の大火（1988『吉川隨筆・前田氏家乘』桂書房p29）で罹災し廃棄されたと推測される。もしそうであれば、持ち主は1000石の上級藩士である戸田家ではなく、その前に居を構えていた三輪家となり、200石の中級藩士が持ち得たものなのかなという疑問が生まれる。それらについて、今後検討を加えたいと考えている。（新宅・鹿島）

最後に本論を作成するに当たって下記の諸氏、機関より資料提供、ご指導ご教示を賜りました。記して謝意を表します。（敬称略 五十音別）

石井たま子 大貫浩子 大橋康二 片山まび 九千房英之 九千房百合 佐々木達夫 佐々木花江 普沢そわか 杉谷香代子 高木好美 徳留大輔 中原義史 長佐吉真也 仲光克顕 藤田邦雄 堀内秀樹 萩恵子 水岡育子 水本和美 山下峰司（株）アーキジオ

#### 注）

（注1）京都国立博物館 2013 図録『魅惑の清朝磁器』p48

（注2）佐賀県立九州陶磁文化館 2016 図録『日本磁器の源流』P215

（注3）京都国立博物館 2013 図録『魅惑の清朝磁器』p201に記述あり

（注4）佐賀県立九州陶磁文化館 2016 図録『日本磁器の源流』P143

（注5）京都国立博物館 2013 図録『魅惑の清朝磁器』p83

（注6）根津美術館 2000 『華南のやきもの』p6

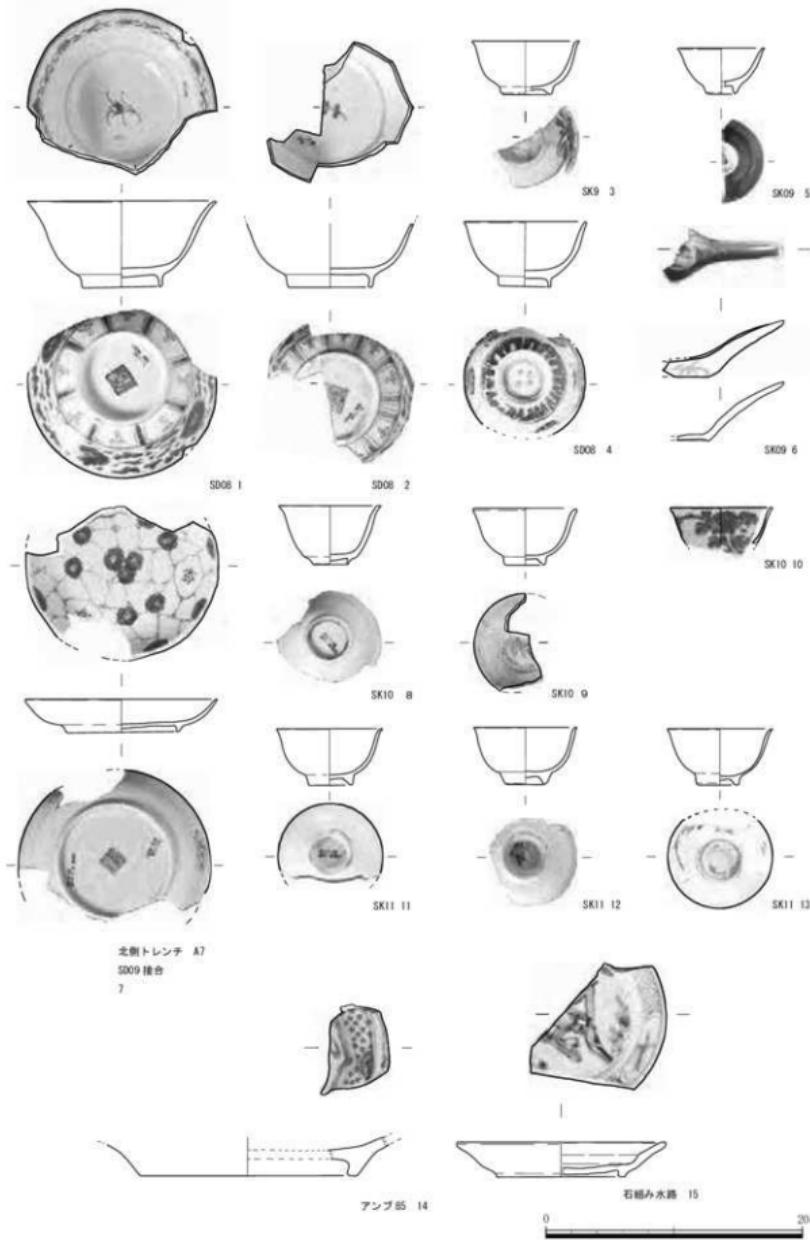
#### 参考文献

伊野近富 1992 「京都府出土の華南三彩盤を中心に」『東洋陶磁 VOL.19』東洋陶磁学会  
金沢市埋蔵文化財センター 2006 『広坂遺跡（1丁目）III』

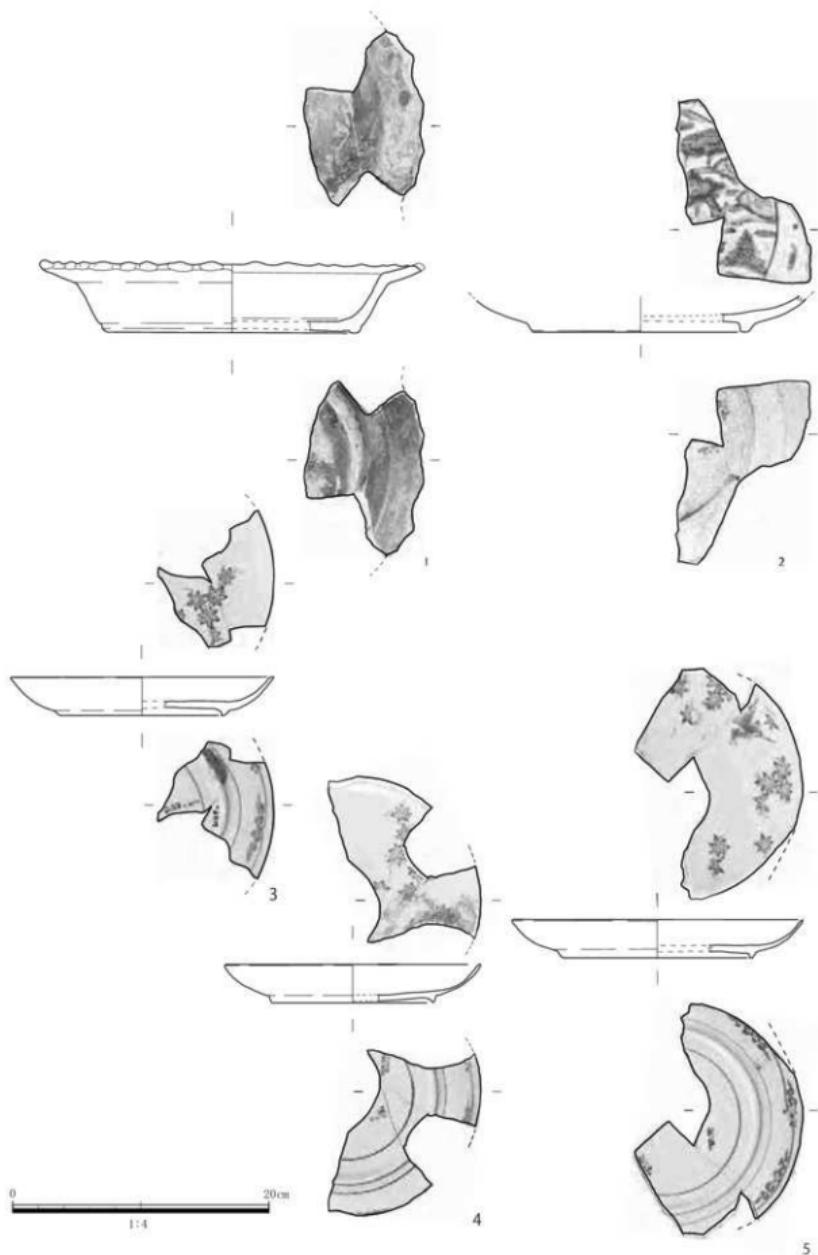
佐賀県立九州陶磁文化館 2003 『柴田コレクション総目録』

総曲輪通り南地区市街地再開発組合 富山市教育委員会 2006 『富山城跡発掘調査報告書』

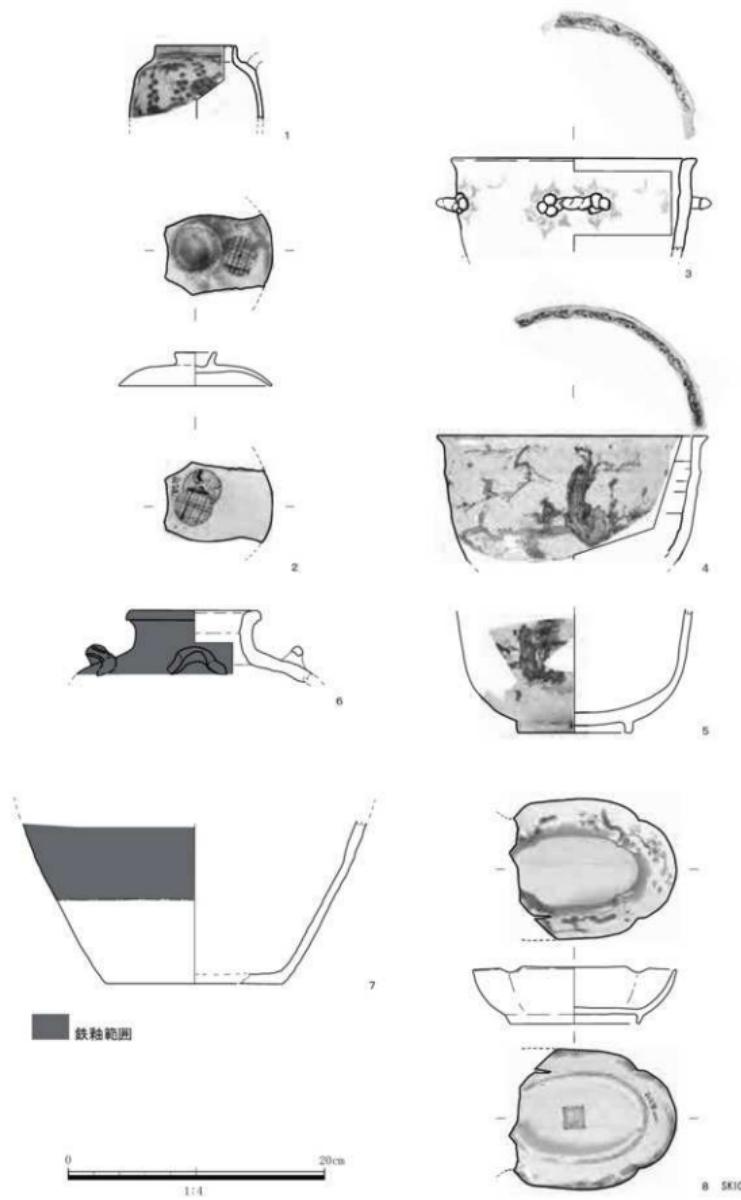
総曲輪四丁目・旅籠町地区開発協議会 富山市教育委員会 2010 『富山城跡発掘調査報告書』



第2図 総曲輪フェリオ地区出土 貿易陶器 (1:4)



第3図 SK62出土遺物 (1:4)



第4図 SK62、SK10出土遺物 (1:4)



写真図版 1. SD08 出土遺物（第 1 図-1）



写真図版 2. SD08 出土遺物（第 2 図-2）



写真図版 3. SD08 出土遺物（第 2 図-4）



写真図版 4. SK62 出土遺物



写真図版 5. SK62 出土遺物



写真図版 6. SK62 出土遺物



写真図版 7. SK62 出土遺物 表



写真図版 8. SK62 出土遺物 裏



写真図版 9. SK62 出土遺物



写真図版 10. SK62 出土遺物

第1表 總曲輪フェリオ地区出土遺物観察表

図版番号	出土位置	種類	器種	產地	時期	測量				残存率	備考
						口径	周長	底径	高台径	底厚	
第1圖-1	SD08	磁器	青花花卉草文鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀初頭	14.7	6.7	—	6	0.7	80 残存率の文様写し
第1圖-2	SD08	磁器	青花花草草文鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀初頭	—	(5.0)	—	(6.4)	0.5~0.7	40 丸錐付の文様等し
第1圖-3	SD08	磁器	彩印牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	(8.4)	4.2	—	(4.0)	0.3	40 万字大綱が有り、 唐文字が鉢の口あり
第1圖-4	SD08	磁器	青花舟子編繩文小鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀末葉~19世紀初葉	9.5	5.0	—	4.2	0.6	70
第1圖-5	SK09	磁器	小鉢	中国	19世紀代	(8.0)	3.8	—	(2.2)	0.4	50 埋藏物
第1圖-6	SK09	磁器	彩印蓮華	中国	19世紀前葉~中葉	—	—	—	—	—	80 十脚手
第1圖-7	SK09	磁器	中皿	中国 青磁鎮窯	19世紀前葉	13.0	2.6	—	8.9	0.4	60 青花文字製 「大通達年吉」印
第1圖-8	SK10	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	(8.0)	4.6	—	(2.7)	0.6	70 白磁物のみ
第1圖-9	SK10	磁器	彩印牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	(8.0)	4.5	—	(3.2)	0.3	45 朱文字が入りガラス線絆の跡あり
第1圖-10	SK10	磁器	彩印牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	(8.0)	(2.8)	—	—	0.3	10
第1圖-11	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	8.4	4.4	—	3.5	0.5	80 白磁物のみ 黑内面に押出あり
第1圖-12	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	(8.0)	4.5	—	(3.0)	0.5	45 白磁物のみ
第1圖-13	SK11	磁器	彩印牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	8.2	4.4	—	3.4	0.3	80 彩印物のみ
第1圖-14	不規	磁器	大皿	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	(0.3)	—	(1.7)	0.7	10 裏面には砂が付着する。生掛け
第1圖-15	不明	磁器	皿	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	(16.4)	2.7	—	(10.0)	0.8	40 裏面に金の文字 地図の「金の文字 地図」印と16世紀 後半頃の「通鑑」
第2圖-1	SK02	磁器	盤	中国 南宋三彩	16世紀後葉~17世紀初葉	(20.0)	5.4	—	(19.5)	0.7	10 印花花鳥文か 模花飾物タブ装
第2圖-2	SK02	磁器	皿	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	(2.6)	—	(16.8)	0.5	10 裏面には砂が付着する。生掛け
第2圖-3	SK02	磁器	皿	肥前 南川原窯	1660年~1690年頃	(20.0)	3.0	—	(13.0)	0.5	10 肥前窯
第2圖-4	SK02	磁器	皿	肥前 南川原窯	1660年~1690年頃	(22.0)	3.0	—	(12.6)	0.5	20 肥前窯
第2圖-5	SK02	磁器	皿	肥前 南川原窯	1660年~1690年頃	(22.0)	3.0	—	(10.0)	0.5	40 肥前窯
第3圖-1	SK02	磁器	壺	巴前	1650年頃	(8.2)	(5.7)	—	—	0.4~0.6	10 体部外面に押出字あり。 体部内面には草葉文を記す。 マスター印(小字)
第3圖-2	SK02	磁器	壺蓋	巴前	1650年頃	(12)	2.7	—	—	0.5	45 全体的に火焔を放いている。
第3圖-3	SK02	磁器	水差しか	巴前	17世紀前葉	(19.0)	(7.7)	—	—	0.8	10 体部外面には押出字がある。 口縁には草葉文を記す。
第3圖-4	SK02	磁器	水差しか	巴前	17世紀前葉	(11)	(9.7)	—	—	1.0	15 体部外面には押出字がある。 口縁には草葉文を記す。
第3圖-5	SK02	磁器	水差しか	巴前	17世紀前葉	—	(9.5)	—	(9.0)	1.0	20 全体的に火焔を放している。 口縁には草葉文を記す。
第3圖-6	SK02	磁器	壺	信濃	17世紀代	(16.0)	(5.0)	—	—	1.1	20 美濃窯 塗付壺
第3圖-7	SK02	磁器	壺	信濃	17世紀代	—	(12.5)	(13.6)	—	0.6~0.7	20 美濃窯 塗白壺
第3圖-8	SK02	磁器	変形壺	肥前 南川原窯	1660年~1690年頃	(15.6)	4.5	—	(10)	0.5	80
又真圖-1	SK008	磁器	青花人物星文鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀初頭	—	—	—	—	—	80 第1圖-1の遺物
又真圖-2	SD08	磁器	青花北山草文鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀初頭	—	—	—	—	—	第1圖-2の遺物
又真圖-3	SD08	磁器	青花北山草文鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀初頭	—	—	—	—	—	第1圖-3の遺物
又真圖-4	SD08	磁器	青花身手編繩文小鉢	中国 青磁鎮窯	19世紀末葉~19世紀初葉	—	—	—	—	—	第1圖-4の遺物
又真圖-5	SK02	磁器	三足爐	中国	明末期	—	—	—	—	—	古安井
又真圖-6	SK02	磁器	壺	中国 青磁鎮窯	明末期	—	—	—	—	—	—
又真圖-7	SK02	磁器	壺	信濃	1650年以降	—	—	—	—	—	—
又真圖-8	SK02	磁器	壺	信濃	1650年以降	—	—	—	—	—	—
又真圖-9	SK02	磁器	壺	信濃	1650年以降	—	—	—	—	—	—
又真圖-10	SK02	磁器	壺	信濃	1650年以降	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目10	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目11	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目12	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目13	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目14	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目15	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目16	A-2-2区	磁器	壺	中国 津州窯	16世紀末葉~17世紀初葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目17	SK009	磁器	青花牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目18	SK009	磁器	青花牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目19	SK009	磁器	青花牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目20	SK009	磁器	青花牡丹文花小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀中葉~後葉	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目21	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目22	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目23	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目24	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目25	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目26	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目27	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—
駕籠蓋目28	SK11	磁器	小鉢	中国 鎌倉窯	19世紀代	—	—	—	—	—	—

納屋内 高史  
(埋蔵文化財センター嘱託学芸員)

## はじめに

近年、各地の江戸時代の城下町遺跡では発掘調査が進み、文献史料ではあまり明らかでなかった人々の暮らしぶりが解明されつつある。特に食文化の面では、意識的に記録されにくい普段の食生活や庶民の食文化についての情報が蓄積されてきている。このような状況は、近世富山においても例外ではない。筆者はこれまで主に出土した動物遺存体の面から近世富山の食文化について検討を行ってきたが(納屋内 2015 他)、今回は動物遺存体だけでなく種子類や陶磁器類、什器類の出土状況を概観した上で、総合的な見地から近世富山における食文化について検討を行いたい。

### 1. 近世富山における食文化関連遺物について

近世富山の発掘調査は、これまで近世富山城南部の家老・重臣級武家が暮らす外堀内側の城内の武家地や中・上級武家が暮らす外堀外側の城外の武家地、背割下水南側の町人地を中心に行われている。これまでの調査で出土した資料の内、食文化に関わるものとしては、動物遺存体、種実類、食器類、什器類がある。報告書が刊行されている調査地点を図1に挙げたが、資料の帰属時期は、江戸後期以降が多い。また、2013a 地点については、動植物遺存体の回収を狙ったフルイを用いた資料採取が行われているほか、2014e 地点も武家地側の一部の遺構についてフルイを用いた資料採取が行われている。

ここでは出土した食文化関連遺物について、動物遺存体、種実類、食器類、什器類に分けて、その出土状況を概観する。

#### (1) 動物遺存体

まず、動物遺存体については、主に町人地から出土しており、城内を含む武家地からの出土は非常に少ない(表 1)。これについては地点差以外に動植物遺存体の回収を狙った資料採取が行われているか否かという点が大きく影響していると考えられる。

出土した動物遺存体の組成を見ると、一般に食用とされていたと考えうるものについては、貝類ではシジミ類、イワガキを中心とするカキ類、魚類ではマダイ、タラ類、鳥獣類ではカモ、キジ、イルカ類が多く出土しているほか、様々な種類の動物が出土している。特にシジミ類、イワガキ、マダイ、タラ類の出土が多い。また、城外堀および三の丸から出土したイヌ、ウシについては、肉を取った痕跡が見られる資料があり、食材や養生品としてその肉が

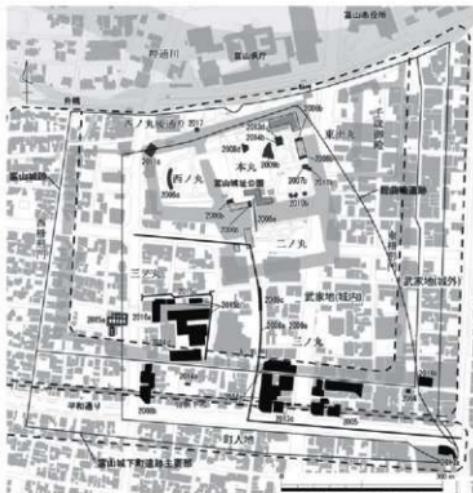


図1:近世富山城・富山城下町の調査地点  
(■は動植物遺存体の報告がなされている地点)

表1:出土動物遺存体集計表（格は『黑白精味集』の格付けを示す）

品目	種類	町人地						武家地				総計	
		2005年度		2006年度		2013年度		2014年度		2014年度			
		城外	外堀	城内	城内	2014年	2014年	2014年	2014年	2015b-	2015b-		
貝類	シソモ類	上		340	7		1		1		3	351	
	ワカガイ・カキ類	上		6	16	36	1	1	1			61	
	ブリ・イカ類	上				2						2	
	エノヒキ類	中				4						4	
	ハマグリ類	中		1	3			1	1	1	1	6	
	サザエ	中									1	1	
	ホタテガイ				2		1					3	
	イセガイ					1						1	
	ウニニ			3								3	
	コマガイ					7						7	
	オキアリ												
	その他貝類				18							18	
魚類	マダラ・金利・タコ科	上	2	122	5						129		
	タコ科	上		47	1						48		
	ブルーパ	上			6							6	
	キス類	上			4							4	
	サツメ	上			3							3	
	アユ	上			2							2	
	サケ類	上			1							1	
	シマズ	上			1							1	
	アンコ	中		19								19	
	ヒメノ科	中		9	1							10	
鳥獣類	フカサゴ科	中		3								3	
	ニベ科	中		1								1	
	ブリ属	下		17	1							18	
	イシシ類	下		11								11	
	マクロク属	下		2	1							3	
	クロダイ属	下	2									2	
	サバ属	下		2								2	
	シウダガシオ属	下		2								2	
	エイ・サメ類	下			1							1	
	ハゼ科	下			1							1	
鳥獣類	カサリ	上		1	13							14	
	ボン類	上			29	2						31	
	ニホンジカ	中	4									4	
	ニワトリ	下		1		2						3	
	イカル	下	16	3					3			22	
	ワシ・タカ類				1							1	
	ネズミ類				2							2	
	イヌ	2		1	2	11		2				18	
	ネコ		23						1	1		23	
	ウマ											2	
	ウシ										1	1	
	ウシ・ウマ				1							1	

表2:出土種類集計

品目	種類	町人地			武家地(城内)			武家地(城外)		2006b-年度	総計	
		2011b-年度	2012c-年度	2014d-年度	2014e-年度	2014f-年度	2014g-年度	2014h-年度	2014i-年度			
		2014j-年度	2014k-年度	2014l-年度	2014m-年度							
果物	ウメ	79	2	1	1							79
	桃	33	1	1	1							33
	アンズ	23										23
	スモモ	82										82
	カキノキ	18										18
	カキノキ属	17	4									21
	エビヅル	20										20
	ツブリ属	9	7									16
	キティゴ属	2										2
	ブドウ属	8										8
野菜	ノブリ属	4										4
	スイカ	2417										2417
	トウモロコシ	789				1						790
	アスパラガス	465	3964		454	1	1					830
	カボチャ	194										194
	ナス	92	2									94
	ナス属	142										142
	イネ	68	104					107	211			490
	オオムギ	14						1				15
	タケ	266		1								267
米・穀類	キビ	4										4
	ソバ	47	1									47
	アズキ類混	3										3
	アカザ属	101	5									106
	サンショウウ	314										314
	アサガホ	15										15
	エンドウ	53										53
	シソ属	26										26
	トウガラシ	156										156
	コマ	4										4
調味料	アブラナ科			2								2
	イチゴ	1	1									2
	エリミ	2	2									4
	レシモ	1										1
	マタタキ属	2										2
	ニンジン	4										4
その他	ガマズミ属	1										1

利用されていた可能性がある。

このような出土資料の傾向を江戸時代中期の料理書『黑白精味集』の格付けと比較すると、格付けで「下」とされるものから「上」とされるものまで幅広く出土しており、特に「上」とされるものが多く出土している。このことから、江戸後期を中心とする当時の人々、特に町人が上物から下物まで様々な動物を利用していたことがうかがえる。

### (2)種実類

種実類については、町人地、武家地ともにウリ類が特に多く出土している(表2)。これ以外は、果物ではウメ、モモ、スモモ、アンズ、エノキが、野菜ではカボチャ、ナスが、調味料ではサンショウ、トウガラシ、シソ・エゴマ類が、穀類ではイネの他、ヒエ、オオムギ、ソバが多く出土している。資料の採取方法の違いを加味する必要があるが、武家地においてウリ類を除く果物類、野菜類とヒエ等の雑穀類が少ない傾向にある。

### (3)食器類

食器類については、報告書掲載資料を概観すると町人地、武家地とともに碗、皿、鉢が多く、壺類や瓶類は少ない(表3)。また、碗については天目の出土が城内の武家地に偏り、鉢については、町人地で出土比率がやや高い傾向がある。

これらの内、出土量の多い陶磁器製の碗、皿、鉢について、その口径を出土地点ごとに比較してみると、特に皿について城外の武家地は町人地と比較して大型品が少ない傾向が見られるほか、城内の武家地では小型品を主体としつつも、直径30cmを超えるような大型品が見られ、2極化する傾向が見られる。また、鉢については、町人地、城外の武家地では、小型品から大型品まで比較的まんべんなく出土しているが、城内の武家地では20cm以上のものが多くを占める傾向が見られる(図2)。

表3:出土食器類集計表(報告書掲載資料を基に集計)

△	町人地	武家地(城外)						外縁	武家地(城内)					
		2005	2013a	2013c	2014e	2009n	2005	2014a	2008b	2016b	2014d	2010a~2016a	本丸(2006~2011)	西の丸(2006c)
陶磁器	碗	13	73	67	69	23	64	66	14	20	34	170	13	44
	深大皿	2	2	2	2			1		2	21	1	8	9
	皿	17	74	42	64	36	35	73	20	37	124	161	35	65
	鉢	3	13	23	14	8	6	9	3	5	7	45	1	7
	片付					2		4	1		3	13	4	
	役置					5			2				3	
	焼口	6	1	71		4	4	7	1	1	5			
	片付							1		10		9	1	1
	湯呑									1		1		
	皿		7	7	3			1		3		14		3
漆器	土瓶	1									5	1		
	漆利					2					1			
	漆透利	1									5	1		
	漆物	1	4		2	5	5	2	2	2				
	漆器	1									1	2	4	1
	漆器						11			2			1	
	漆		7	7	9	1	25	13		48		3		
	漆											1		
	漆											2		
	漆											1		
漆器・漆製品	漆物	3	19	6			1	5						
	漆物容器	1	9	11		6	3	22			17	13	40	
	漆器	1						1						
	漆枝												1	
	漆枝													
	漆枝													

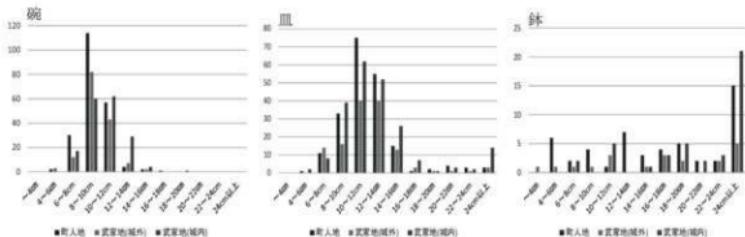


図2:碗・皿・鉢の口径分布(報告書掲載資料を基に集計)

表4:出土什器類集計表(報告書掲載資料を基に集計)

	町人地				武家地(城内)				外堀		武家地(城外)		
	2008	2013a	2013c	2014a	2008b	2009	2014a	2008b	2014a	2011a~2018a	2015a	本丸(2006a~2014a)	西の丸(2006a)
鉢道具(木製品) (陶磁器)			1										
匙			6										
匙	4	5	2	13	5	5	2		4	8	16		3
匙(木製品) (陶磁器)													
匙			3		3	3	3	1	3	3	16		3
匙(木製品) (陶磁器)					2						6		8
片口		3	4	1						1			
片口(陶磁)			3										
鉢		5	2	16	5	9	21	2	6	30	72	9	13
鉢(陶磁)													2
鉢(木製品) (陶磁器)													
土器			1							2	14		1
土器(陶磁)										1			4
土器(木製品)													
鍋										5	2		
鍋(木製品) (陶磁器)													
杓子			1			4							
杓子(木製品)			1										
ナイフ型木 鉢道具										2			
匙(木製品)											3		
鉢道具											9		
鉢道具											1		
鉢道具											3		
火鉢									1	1			1
火鉢(陶磁器)													2

## (4)什器類

什器については、報告書掲載資料を概観すると町人地、武家地ともに擂鉢、壺、甕が多く出土する点で共通するが、町人地では壺が、武家地では鍋類が目立つ。また、武家地では焜炉、風炉といった火処類の出土が見られる(表4)。特に武家地で鍋類と火処類が目立つ点は注目され、喫茶以外で料理を食する場で鍋を温めるような食事様式が武家に存在した可能性があるだろう。

## 3. 考察

ここまで、富山城及び富山城下町遺跡から出土した食文化関連遺物について概観してきた。

まず、出土した動物遺存体について改めて検討すると、2015年以降、新たに城内出土資料が追加されたが、出土資料全体の傾向は納屋内(2015)と大きく変わらない。これらは納屋内(2015)で指摘したように、みな城下町近傍で獲得可能かつ人々の普段の食生活に伴うと考えられる。城下町近傍で獲得可能な様々なものを利用するとともに、普段から比較格の高いものを利用していたといえる。また、種実類については、資料数が少なく、採取方法の違いによる偏りが大きいため、単純に評価することはできないが、ウリ類の多出は注目される。出土した野菜、果物類の面から近世富山の食文化を特徴づけるものとして、ウリ類の多用を上げることができるだろう。

食器類・什器類については、碗、皿、鉢や擂鉢が組成の多くを占め、碗、皿、鉢を用いて食事が提供され、また擂鉢を用いた練物や和え物等がよく作られていたことがうかがわれる。

以上のことから、近世富山においては、シジミ、イワガキ、マダイ、タラ、ウリ類を用いた料理が碗、皿、鉢を用いて多く提供され、擂鉢を用いた練物や和え物等もよく作られていたと考えられる。

出土資料から見た近世富山の食文化の全体的な傾向についてみてきたが、以下では出土資料の階層差に注目して考察を行いたい。

出土資料にみられる近世の階層差については、上方において、陶磁器、土器類の出土量や輸入陶磁器等の高級品の出土傾向に階層差が見られることが指摘されているほか(赤松2006)、近世京都では、特に魚介類について住人の階層により利用されている種類が異なることが指摘されている(丸山2013)。

近世富山について、出土した食材の様相を見てみると、魚貝類、鳥獸類は、武家地の資料

数が少なく住人の階層の違いによる差異は明確には見いだしがたいが、種実類は、武家地でウリ類を除く果物類、野菜類とヒエ等の雑穀類が少ない。動植物遺存体は資料の大きさが小さく、地点ごとの資料採取方法の違いを加味する必要があるが、この点については住人の階層差による食文化の違いを示す可能性がある。

また、食器類、什器類については、大局的な器種構成の点で各地点とも大きく変わらないが、法量や火處の出土傾向と言った点で住人の階層による差異が認められる。特に、食器類における法量の差異については、共同器に盛られた料理を銘々で取り分けて食する庶民の食事様式と銘々の食事が取り分けられた状態で提供される武家の食事様式の違いが反映されていると考えられる他、武家の中でも家格によっては大皿や大鉢を用いて引き回して料理を提供することがあったという武家の中での食文化の違いも反映されていると考えられる。武家地において鍋類と火處類が目立つ点についても、このような武家の食事様式が反映されていると見ることも可能であろう。このほか、茶器である天目の出土が城内の武家地に偏る点は、城内に暮らす家老・重臣級の武士層で茶の湯がより盛んであったことを物語る。

この様に、階層差に注目して近世富山の食文化を出土資料から見ると、資料の出土傾向に階層間の違いが見られ、特に食器類、什器類で明らかである。近世富山の食文化は、特にその調理方法、提供方法の点で階層ごとに異なったあり方を取っていたと考えられる。

#### おわりに

以上、これまでの富山城及び富山城下町の調査で出土した考古資料を基に、近世富山における食文化を検討してきた。検討の結果、近世富山では、シジミ、イワガキ、マダイ、タラ、ウリ類を用いた料理が碗、皿、鉢を用いて多く提供され、擂鉢を用いた練物や和え物等もよく作られていたことが考えられた。また、食器類、什器類の出土傾向に階層間の違いが見られ、近世富山の食文化は、特に調理方法、提供方法の点で階層ごとに異なったあり方をとっていたことが考えられた。

今回の検討結果は、出土資料の時期が江戸後期以降を中心とするため、江戸後期以降における様相を主に示していると考えられる。その為、今後、それ以前の江戸前期、中期の様相の追及が求められる。また、食器・什器類については報告書掲載資料を基にした検討であり、未報告資料が含まれていないという限界がある。このほか、食材類については資料採取方法の違いによる偏りが大きく、特に動物遺存体について、武家地での出土例が少なく、各階層間の様相の違いを明確に捉えることができなかつた。しかし、武家地においても比較的出土例の多い貝類に町人地との差があまり見られず、当時下物とされたイルカ類が町人地のみならず武家地からも出土していることは、主菜となる動物質食材について、階層間であまり大きな差がなかったことを示唆するのではなかろうか。

これらの点については、今後、未報告資料の分析を進めるとともに、動植物遺存体の回収を狙った目的的な調査の進展を待って改めて検討する必要がある。同時に文献資料や絵図にみられる当時の料理の内容や民俗事例として残る伝統料理等との比較検討も必要であろう。

註：出土動物遺存体、種実類については、出土資料数を基に集計。種実類は、食用となるもののみを集計している。食器類、什器類については、本調査が行われた地点を基本に、報告書に掲載された資料を基に出土資料数を集計している。

## 《参考文献》

- 赤松和佳 2006 「近世土器・陶磁器からみた都市住民の階層性—関西を中心に—」『ヒストリア』198, 大阪歴史学会, pp. 171-202.
- 富山市教育委員会 2006 『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪通り南地区第一種市街地再開発事業に伴う富山城下町の発掘調査報告 - 』, 富山市教育委員会, 160pp.
- 富山市教育委員会・富山市路面電車推進室 2009 『富山城跡発掘調査報告書 - 市内電車敷設工事に伴う発掘調査・工事立会調査 - 』, 富山市教育委員会, 98pp.
- 富山市教育委員会・総曲輪四丁目・旅籠町地区開発協議会 2010 『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪四丁目・旅籠町地区優良建築物等整備事業に伴う富山城下町の発掘調査報告』, 富山市教育委員会, 108pp.
- 富山市教育委員会 2014a 『富山城下町遺跡主要部発掘調査発掘調査報告書 - 西町南地区市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 - 』, 西町南地区市街地再開発組合・富山市教育委員会, 154pp.
- 富山市教育委員会 2014b 『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書 - 一番町共同ビル(仮称)新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 』, 富山市教育委員会, 130pp.
- 富山市教育委員会 2015 『富山城跡・富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書 - 総曲輪西地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』, 富山市教育委員会, 192pp.
- 富山市教育委員会 2016 『富山城跡発掘調査報告書 - 城址公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2) - 』, 富山市教育委員会, 127pp.
- 富山市教育委員会 2017a 『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』, 富山市教育委員会, 159pp.
- 富山市教育委員会 2017b 『富山城跡発掘調査報告書 - 城址公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(2) - 』, 富山市教育委員会, 220pp.
- 富山市教育委員会 2017c 『富山城下町遺跡主要部発掘調査報告書 - 総曲輪三丁目地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 - 』, 富山市教育委員会, 96pp.
- 富山市教育委員会 2018a 『富山城跡本丸石垣解体修理発掘調査報告書 附編 - 本丸・西の丸の工事立会 - 城址公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(3) - 』, 富山市教育委員会, 571pp.
- 富山市教育委員会 2018b 『富山城跡発掘調査報告書 - 総曲輪レガートスクエア整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』, 富山市教育委員会, 430pp.
- 納屋内高史 2010 「富山城下町(町人地)出土の動物遺存体」『富山市考古資料館報』47, pp. 14-15.
- 納屋内高史 2012 「近世富山城下町出土の動物遺存体 - 2006, 2008 年度調査出土資料の紹介 - 」『富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 富山市の遺跡物語』13, 富山市教育委員会埋蔵文化財センター, pp. 33-37.
- 納屋内高史 2017 「出土動物遺存体から見た近世富山城下町の食生活」『江戸藩邸と国元・金沢の食生活』東京大学埋蔵文化財調査室調査研究プロジェクト 3, 東京大学埋蔵文化財調査室・加賀藩食文化史研究会, pp. 25-34.
- 松下幸子・吉川誠次・山下光雄 1988 「古典料理の研究(十三) - 『黑白精味集』について - 」『千葉大学教育学部研究紀要 第2部』36, 千葉大学教育学部, pp. 307-346.
- 松下幸子・吉川誠次・山下光雄 1989 「古典料理の研究(十四) - 『黑白精味集』中・下巻について - 」『千葉大学教育学部研究紀要 第2部』37, 千葉大学教育学部, pp. 221-290.
- 丸山真史 2013 「近世、京都の魚食文化 - 近世三都の魚貝類の比較を通じて - 」『動物考古学』30, 動物考古学研究会, pp. 121-135.

富山城・城下町における調査一覧（地図は p. 46・54 参照）

調査年度	調査箇所	調査原因	調査年度	調査箇所	調査原因
2004	城下町（絆曲輪）	グランドハイキング建設工事	2012a	二ノ丸、三ノ丸、城下町	水道工事
2005	城下町（一番町・絆曲輪）	絆曲輪フェリオ建設工事	2012b	本丸、西ノ丸	城址公園整備（電線管工事等）
2006a	本丸、二ノ丸内堀	城址公園整備（施改修）	2013a	城下町（西町）	TOYAMAキラリ建設工事
2006b	本丸鉄門西石垣、御手前石垣	城址公園整備（石垣解体修理）	2013b	二ノ丸、東出丸、二ノ丸内堀	水道工事
2006c	西ノ丸	城址公園整備（ステージ建設）	2013c	城下町（一番町・絆曲輪）	一番町スクエアビル建設工事
2006d	城下町（絆曲輪）	グランドハイザ建設工事	2013d	本丸	城址公園整備（池泉整備）
2006e	本丸大手橋	城址公園整備（電線管工事）	2013e	本丸	城址公園整備（電気設備工事等）
2006f	本丸御出土塁	千歳御門移築	2014a	城下町（絆曲輪）	レーベン富山絆曲輪レジデンス建設
2007	本丸裏込土塁	城址公園整備（石垣新設）	2014b	本丸	城址公園整備（池泉整備）
2008a	二ノ丸、三ノ丸、城下町（一番町・通前町・絆曲輪）	市内電車敷設工事	2014c	本丸	城址公園整備（雨水内外設備・電気設備工事等）
2008b	城下町（通前町・絆曲輪）	プレミスト絆曲輪建設工事	2014d	三ノ丸外堀	絆曲輪レガートスクエア（第1期）
2008c	三ノ丸	市内電車敷設工事	2014e	城下町（一番町・絆曲輪）、三ノ丸外堀	エクウラン絆曲輪建設工事
2008d	本丸	城址公園整備（池泉整備）	2015a	三ノ丸	アームストロング青葉幼稚園移転新築工事
2009a	二ノ丸、三ノ丸、城下町（一番町・通前町・絆曲輪）	市内電車敷設工事	2015b	三ノ丸	絆曲輪レガートスクエア（第2期）
2009b	本丸	城址公園整備（池泉整備）	2015c	三ノ丸	公共下水道老川第二排水区絆曲輪四丁目地区浸水対策工事
2010a	西ノ丸	城址公園整備（下水管工事等）	2016a	三ノ丸	絆曲輪レガートスクエア（第3期）
2010b	本丸裏込土塁	城址公園整備（石垣改修）	2016b	城下町（絆曲輪）	絆曲輪三丁市街地内復興
2011a	本丸裏込土塁	城址公園整備（石垣改修）	2016c	西ノ丸内堀	松川雨水貯留設置ポンプ施設工事
2011b	本丸裏込土塁	城址公園整備（石垣新設）	2017	西ノ丸内堀	公共下水道老川第一排水区本丸地区七町町道下水貯留施設工事
2011c	西ノ丸内堀	会員下水道老川処理分区雨水貯留施設工事			

2019年2月現在

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第20号

平成31(2019)年3月29日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒939-2798 富山市婦中町速星754番地 婦中行政サービスセンター3階

TEL. 076-465-2146 FAX. 076-465-5032

E-mail : maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷：有限会社ヤツオ印刷